

福田みらいあるプラン

平成28(2016)年3月

福田自治振興会
(福田地区地域計画策定委員会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1章	地区の概要	2
1	位置・面積	2
2	人口・世帯数	3
3	土地利用, 道路・交通	5
4	主要公共公益施設等	5
2章	地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	6
1	16歳以上の住民	6
2	小・中学生	23
3	地区出身者	26
3章	地区の魅力・資源と問題点・課題	34
1	地区の魅力・資源	34
2	地区の問題点・課題	35
4章	地区の活性化計画	36
1	地区の将来像	36
2	地区づくりの基本方針	38
3	地区づくりの基本計画	39
4	計画の推進体制	48
資料	計画策定の取り組み	50

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

福田地区は、大和地域の中心部である下徳良地区、世羅町中心部に近く、生活利便性に比較的恵まれています。また、地区内には、ほ場整備済みの水田と集落が広がり、美しい農村景観を形成しています。さらに、地区人口は少ないものの年代別の組織や自治振興会などの活動が活発に行われています。こうした環境に惹かれてIターンする人がいる一方で、若年層を中心に人口が流出しており、地区活動の担い手が高齢化してきているとともに活力が失われてきています。

こうした状況を打開するには、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、福田自治振興会では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、誰もが誇りを持ち、自慢できる地区づくりを目指して「福田みらいあるプラン」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「福田みらいあるプラン」は、福田自治振興会が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、福田地区出身者、都市住民など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

福田自治振興会では、各種団体の代表者などとともに「福田地区地域計画策定委員会」を設置し、「福田みらいあるプラン」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区住民（16歳以上）、小・中学生（小学4年生～中学3年生）及び地区出身者へのアンケート調査の実施、地区住民全員を対象とした地区活性化意見交換会（ワークショップ）を行いました。

4 計画の期間

計画の期間は、平成28(2016)～32(2020)年度までの5年間とします。

1章 地区の概要

1 位置・面積

本地区は、三原市大和地域の北東部に位置し、北は世羅町と隣接しており、面積は約3.0km²です。

地区中心部（福田コミュニティホーム）から主要な場所への車を利用した場合の所要時間は、大和支所まで約5分、三原市中心部まで約40分、世羅町中心部まで約20分です。

図1 福田地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を住民基本台帳でみると、平成27(2015)年で214人になっており、過去5年間で13人減少しています。

年齢3区分別人口をみると、平成27(2015)年で0～14歳21人、15～64歳105人、65歳以上88人になっており、65歳以上の割合は約41%になっています。

年齢別にみると、過去5年間で0～14歳及び65歳以上は増加、15～64歳は減少しています。平成17(2005)年から平成22(2010)年にかけて子育て世代の人口が増加した影響を受けて、その後5年間で0～14歳人口が増加しています。

平成27(2015)年の男女別5歳階級別人口をみると、55歳未満の各年齢層において10人未満となっています。

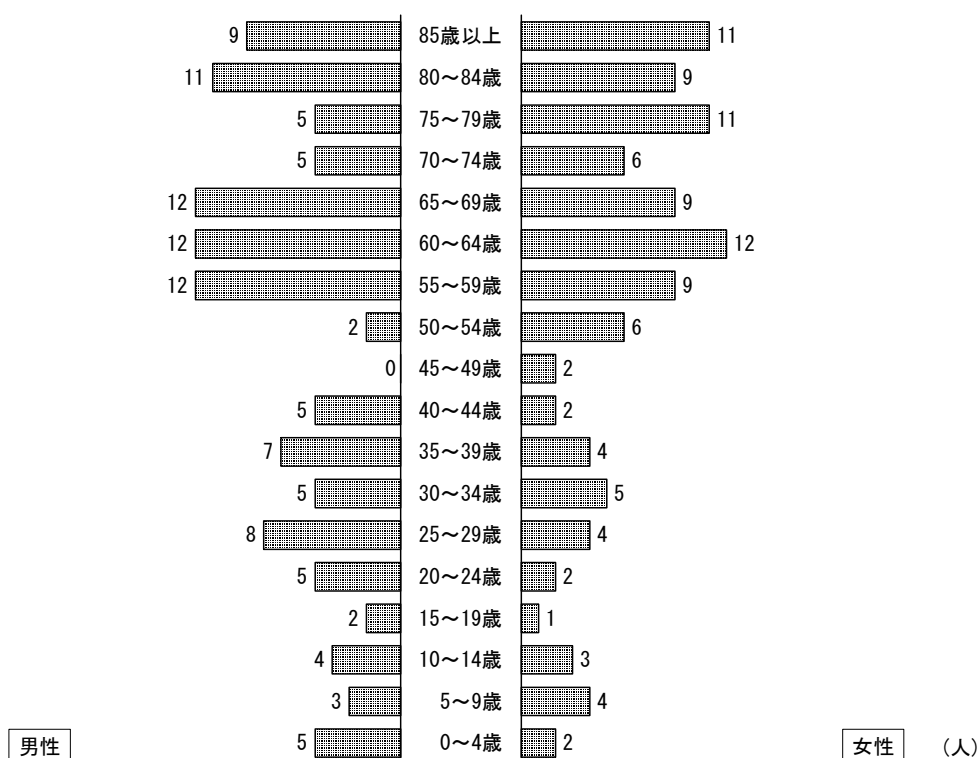
表1 人口の推移

(単位：人，%)

区分	実数			増減率	
	H17 (2005)年	H22 (2010)年	H27 (2015)年	H22(2010)／ H17(2005)	H27(2015)／ H22(2010)
実数	0～14歳	21	16	△ 23.8	31.3
	15～64歳	127	132	3.9	△ 20.5
	65歳以上	88	79	△ 10.2	11.4
	合計	236	227	△ 3.8	△ 5.7
割合	0～14歳	8.9	7.0	-	-
	15～64歳	53.8	58.1	-	-
	65歳以上	37.3	34.8	-	-

注：人口は、各年9月末現在。

図2 男女別5歳階級別人口（平成27(2015)年）



(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を住民基本台帳でみると、平成27(2015)年で73世帯になっており、過去5年間で5世帯増加しています。

1世帯当たり世帯人員は平成27(2015)年で2.9人になっており、過去5年間で0.4人減少しています。

表2 世帯数等の推移

区 分	実 数			増減率(%)	
	H17 (2005)年	H22 (2010)年	H27 (2015)年	H22(2010)／ H17(2005)	H27(2015)／ H22(2010)
世帯数(世帯)	70	68	73	△ 2.9	7.4
世帯人員(人)	3.4	3.3	2.9	△ 2.9	△ 12.1

(3) 人口の将来見通し

人口の将来見通しを平成22(2010)年と平成27(2015)年の住民基本台帳人口をもとに推計すると、平成32(2020)年で210人、平成37(2025)年で190人になり、平成27(2015)年と平成37(2025)年と比較すると約20人の減少が見込まれます。

年齢別に平成27(2015)年と平成37(2025)年の人口を比較すると、0～14歳は横ばい、15～64歳は減少、65歳以上は増加するものと見込まれます。

また、高齢化率は、平成32(2020)年約48%、平成37(2025)年約53%に増加するものと見込まれます。

注：人口の将来見通しは、平成22(2010)年から平成27(2015)年の男女別5歳階級別の人口の推移率を求め、その推移率が将来も継続するものとして推計しました。(例：平成22(2010)年の女性の0～4歳人口5人→平成27(2015)年の女性の5～9歳人口4人の場合は、推移率が0.800になります。)

図3 年齢区分別人口推計

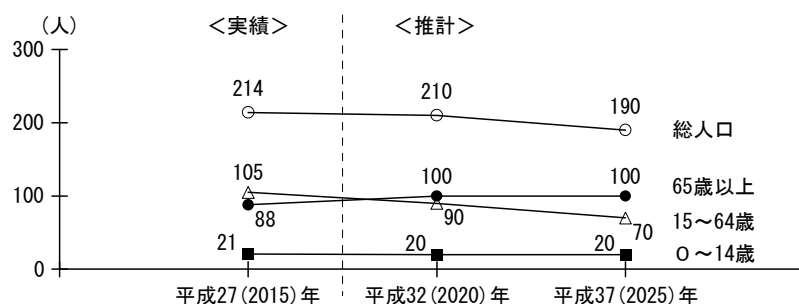
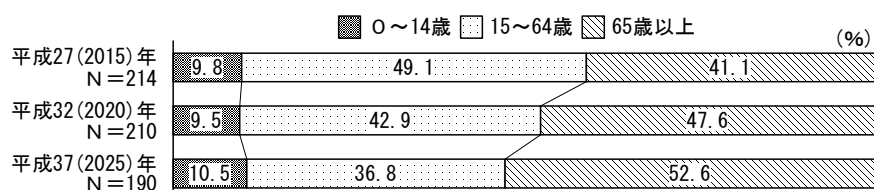


図4 年齢区分別人口割合



3 土地利用，道路・交通

本地区は，集落・農地が地区の中央にまとまって分布しており，その周囲を山林が囲んでいます。河川は，普通河川徳良川が集落・農地の中央を流れています。

道路は，フルーツロードが地区中央を南北に走り，大和地域の中心である下徳良と世羅町を連絡しています。また，国道432号及びフライトロードを経由して山陽自動車道本郷インターチェンジ，河内インターチェンジ及び広島空港と連絡しています。さらに，一般県道津口国兼線が地区中央を東西に走り，フルーツロードと合わせて地区の骨格道路になっています。

地区の公共交通としては，大和地域中心部（下徳良地区）と連絡する大和ふれあいタクシーが（予約乗合タクシー）が週3日運行していますが，路線バスは走っていません。

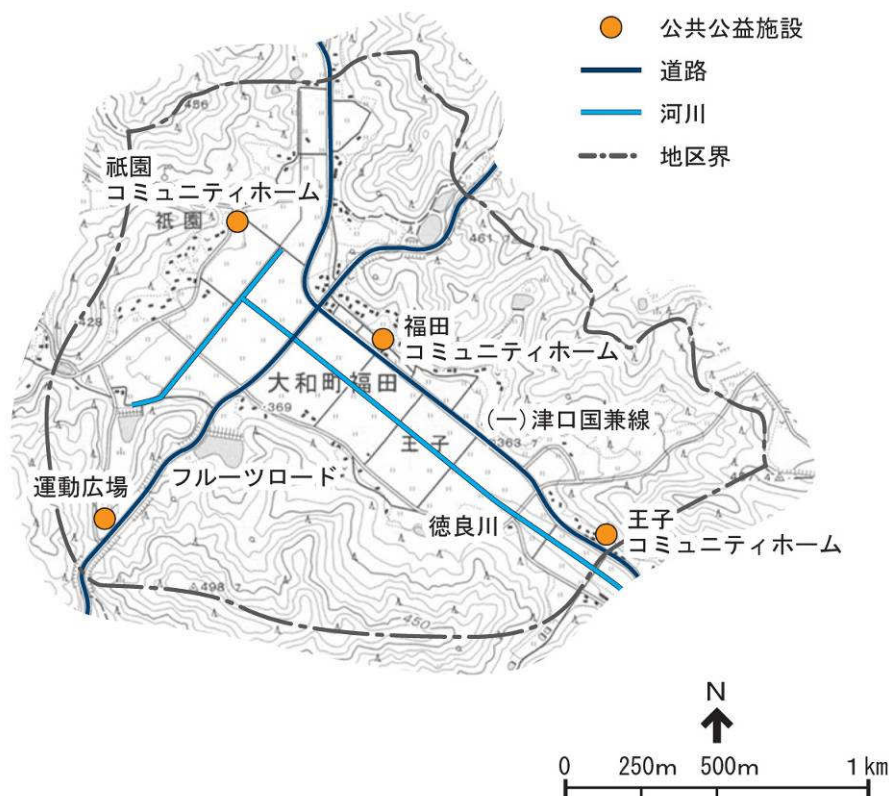
4 主要公共公益施設等

本地区には，集会施設として福田コミュニティホーム，王子コミュニティホーム及び祇園コミュニティホームがあります。また，スポーツ施設として運動広場が地区南部にあります。

表3 福田地区の公共公益施設

区分	名称
集会施設	福田コミュニティホーム
	王子コミュニティホーム
	祇園コミュニティホーム
スポーツ施設	運動広場

図5 福田地区の公共公益施設等



2章 地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

本調査は、地区住民（16歳以上）、小・中学生（小学4年生～中学3年生）及び地区出身者（盆の帰省者）の方の地区づくりへの意見を把握し、「福田みらいあるプラン」の策定に反映するために行ったもので、調査票の回収件数は地区住民（16歳以上）の方167件、小・中学生の方9件、地区出身者の方28件でした。

1 16歳以上の住民

(1) 回答者自身について

回答者の性別は、「男性」50.9%、「女性」44.9%です。

年齢は、「65～74歳」が19.0%で最も割合が高く、次いで「75～84歳」18.6%、「50歳代」16.2%、「60～64歳」13.8%、「30歳代」12.6%、「20歳代」及び「40歳代」6.6%、「85歳以上」6.0%、「19歳以下」0.6%の順になっており、65歳以上が4割以上を占めています。

家族構成は、「三世代・四世代」が24.0%で最も割合が高く、次いで「二世代（子どもと同居）」23.4%、「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」19.8%、「二世代（親と同居）」17.4%、「一人暮らし（65歳以上）」4.8%、「夫婦二人暮らし（夫婦ともに65歳未満）」3.6%、「一人暮らし（65歳未満）」0.6%の順になっており、「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」を合わせた割合が約1/4を占めています。

図6 性別

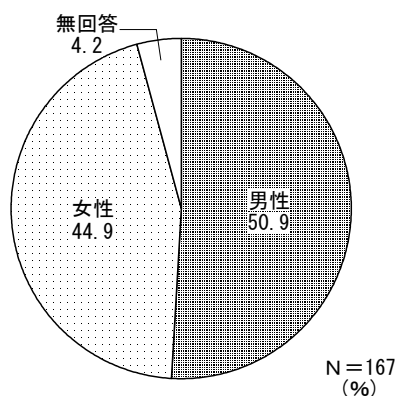


図7 年齢

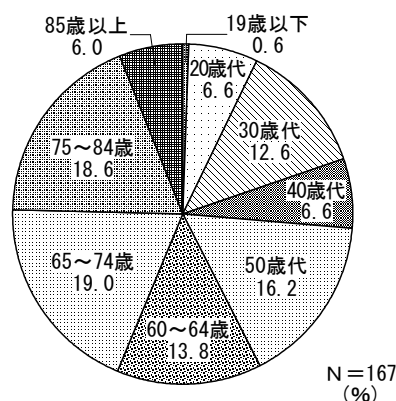
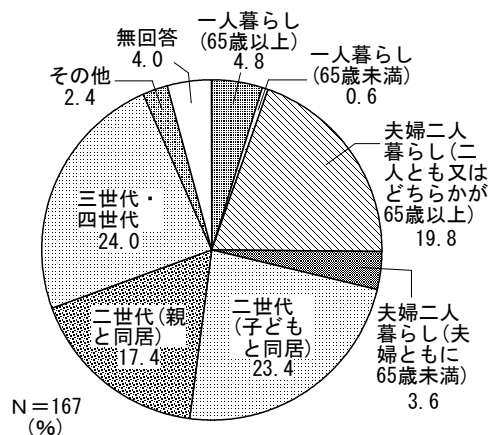


図8 家族構成



(2) 行事・活動の認識, 参加状況と満足度

ア 行事・活動の認識状況

行事・活動について「趣旨・内容を知っていた」と答えた人は、「正月行事（初詣）」、「とんど祭り」、「盆踊り」、「秋祭り」の4項目で80%台、「敬老会」70%台になっており、どの地区でも行われている行事の割合は高くなっています。

一方、福田地区独自の行事である法要及び村法事については50～60%台と低くなっています。

図9 認識状況

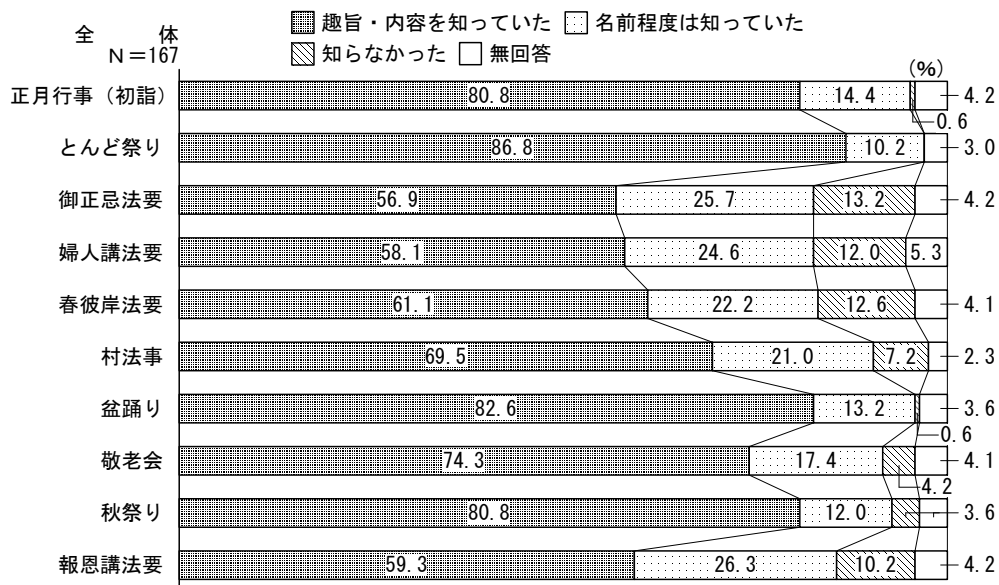


表4 行事・活動の「趣旨・内容を知っていた」と答えた人の割合 (単位: %)

行事・活動名	全体	16～39歳	40～59歳	60～74歳	75歳以上
正月行事(初詣)	80.8	57.6	84.2	89.1	85.4
とんど祭り	86.8	66.7	89.5	96.4	87.8
御正忌法要	56.9	6.1	47.4	70.9	87.8
婦人講法要	58.1	6.1	50.0	76.4	82.9
春彼岸法要	61.1	9.1	57.9	76.4	85.4
村法事	69.5	21.2	65.8	85.5	90.2
盆踊り	82.6	63.7	84.2	92.7	82.9
敬老会	74.3	27.3	78.9	89.1	87.8
秋祭り	80.8	54.5	86.8	87.3	87.8
報恩講法要	59.3	6.1	52.6	76.4	85.4

イ 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人をみると、「とんど祭り」が73.7%で最も割合が高く、次いで「秋祭り」64.1%、「正月行事（初詣）」60.5%、「村法事」56.3%、「盆踊り」52.1%の順で、これら5行事が50%以上になっています。その他では、「報恩講法要」46.7%、「御正忌法要」46.1%、「春彼岸法要」44.3%、「婦人講法要」43.1%の順です。「敬老会」は年齢を限定した行事のため28.7%になっています。

また、「以前は参加していたが、最近では参加していない（できない）」と答えた人をみると、「盆踊り」が31.1%で割合が高くなっています。

さらに、「以前、最近ともに参加していない（できない）」と答えた人をみると、各種法要及び「敬老会」が40%前後で割合が高くなっています。

図10 参加状況

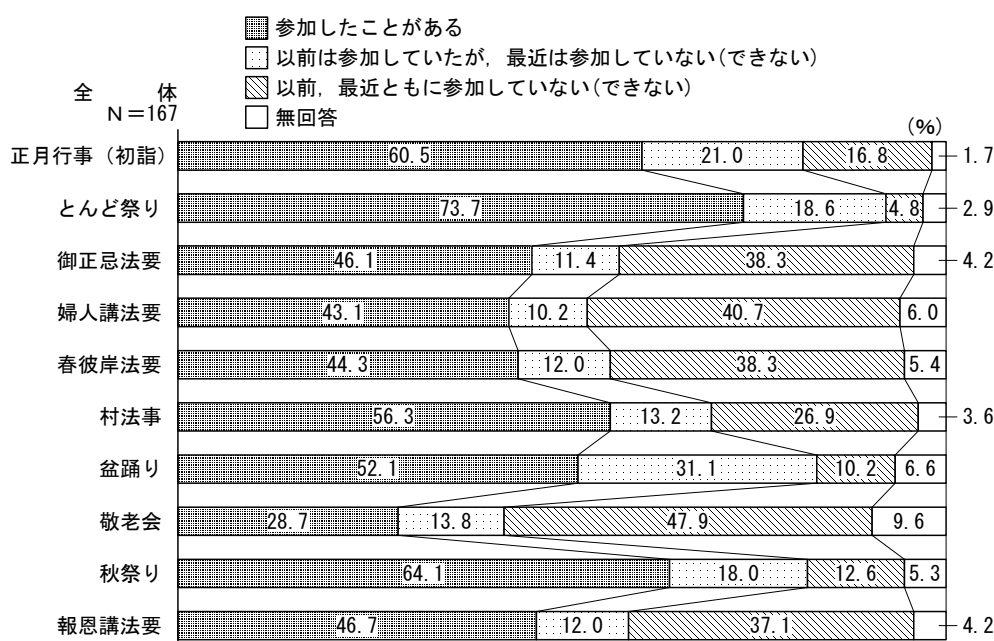


表5 行事・活動への年齢別の参加状況

(単位：%)

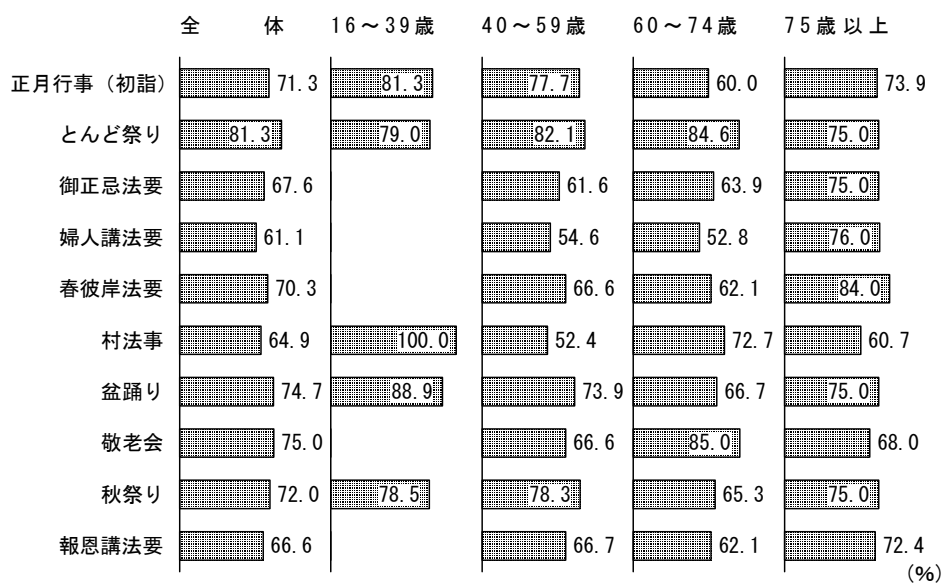
行事・活動名	全体	16～39歳	40～59歳	60～74歳	75歳以上
正月行事（初詣）	60.5	48.5	71.0	63.6	56.1
とんど祭り	73.7	57.5	73.7	94.6	58.5
御正忌法要	46.1	-	34.2	65.5	68.3
婦人講法要	43.1	-	28.9	65.5	61.0
春彼岸法要	44.3	-	31.6	67.3	61.0
村法事	56.3	3.0	55.3	80.0	68.3
盆踊り	52.1	54.5	60.5	54.5	39.0
敬老会	28.7	-	7.9	36.4	61.0
秋祭り	64.1	42.5	60.5	83.6	58.5
報恩講法要	46.7	-	31.6	67.3	70.7
平均参加率	51.6	41.2	45.5	67.8	60.2

ウ 行事・活動に参加した人の満足度

行事や活動へ参加している人の満足度（「良い」と「やや良い」を合わせた割合）をみると、「とんど祭り」が81.3%と8割を超えている程度で、各種法要及び村法事は60～70%と割合が低くなっています。

年齢別に満足度をみると、40～59歳及び60～74歳で各種法要の割合が50～60%台と低くなっています。

図11 満足度

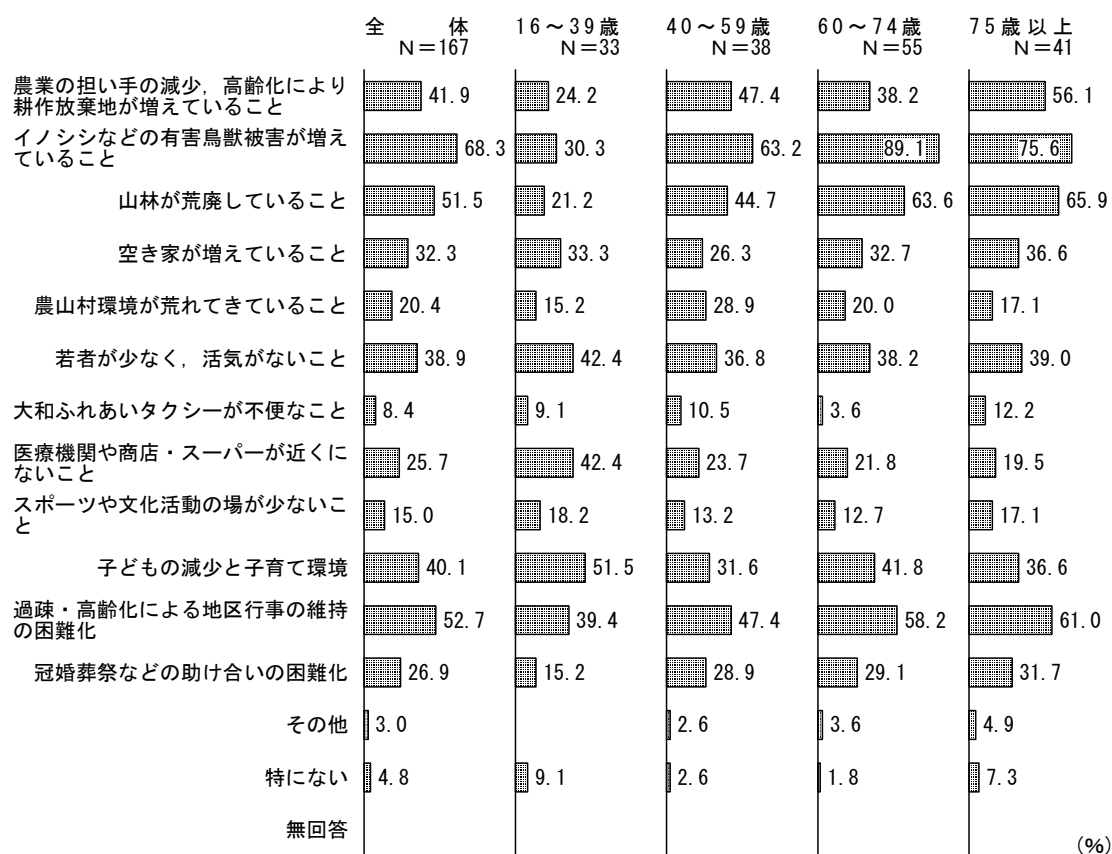


(3) 地区の現状や将来のことでの不安や今後の居住意向

ア 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること

地区の現状や将来のことでの不安に思っていることは、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」が68.3%で最も割合が高く、次いで「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」52.7%、「山林が荒廃していること」51.5%、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」41.9%、「子どもの減少と子育て環境」40.1%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「若者が少なく、活気がないこと」38.9%、「空き家が増えていること」32.3%、「冠婚葬祭などの助け合いの困難化」26.9%、「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」25.7%などの順です。

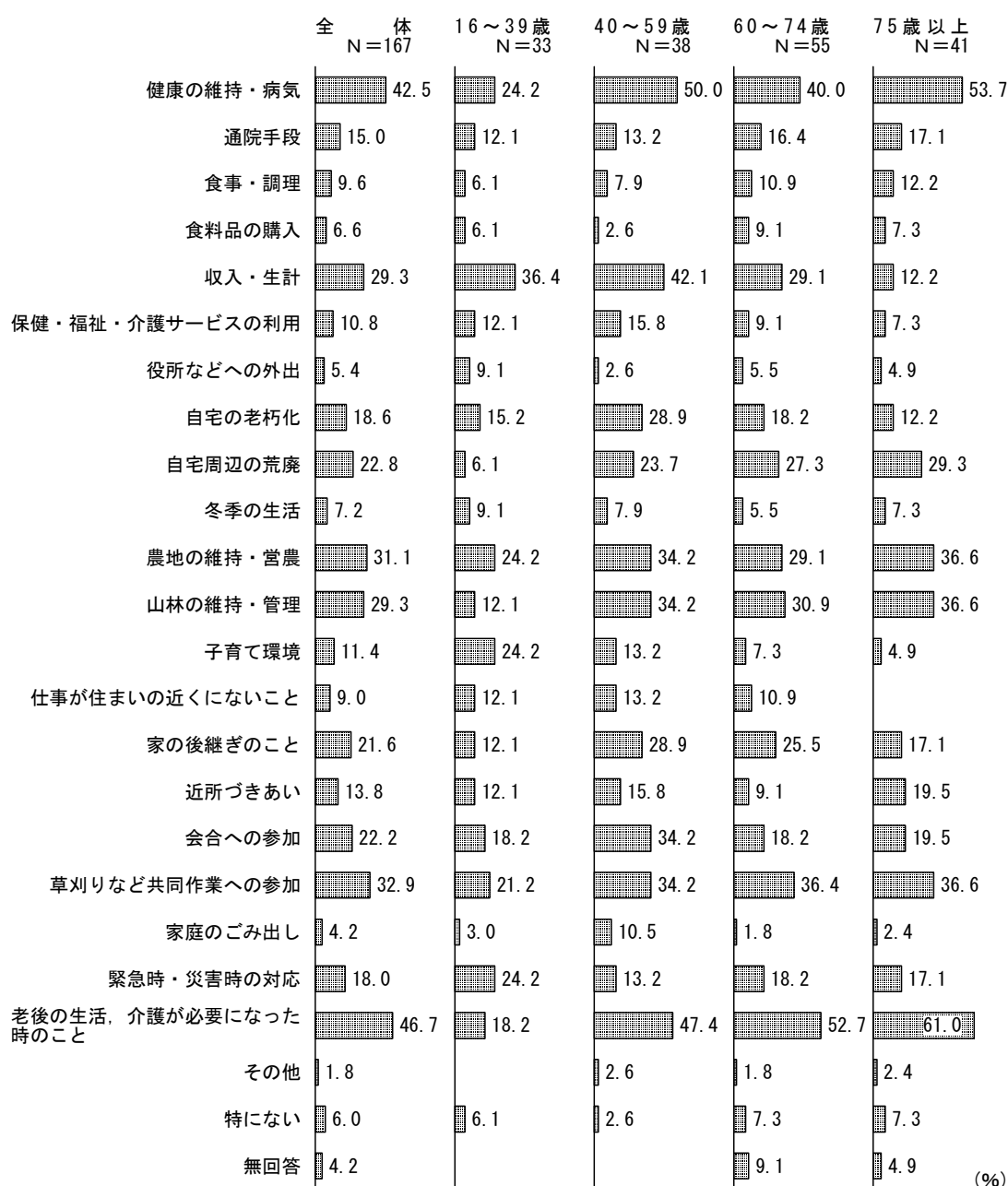
図12 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



イ 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは、「老後の生活、介護が必要になった時のこと」が46.7%で最も割合が高く、次いで「健康の維持・病気」42.5%、「草刈りなど共同作業への参加」32.9%、「農地の維持・営農」31.1%、「収入・生計」及び「山林の維持・管理」29.3%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「自宅周辺の荒廃」22.8%、「会合への参加」22.2%、「家の後継ぎのこと」21.6%などの順です。

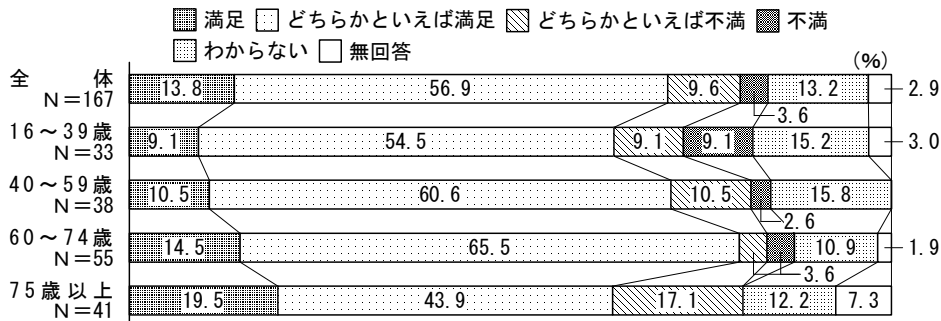
図13 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



ウ 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさについては、「満足」13.8%、「どちらかといえば満足」56.9%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は約7割を占めています。

図14 地区の住みやすさの評価



エ 地区への今後の居留意向

地区への今後の居留意向は、「住み続けたい」45.5%、「どちらかといえば住み続けたい」31.7%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は約8割です。

図15 地区への今後の居留意向

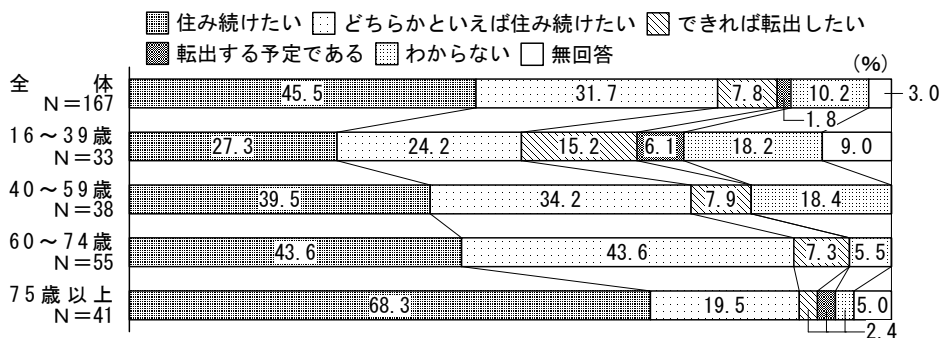
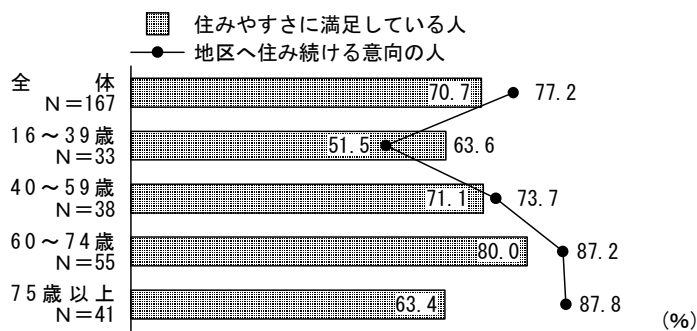


図16 参考 地区の住みやすさの評価と地区への今後の居留意向の比較

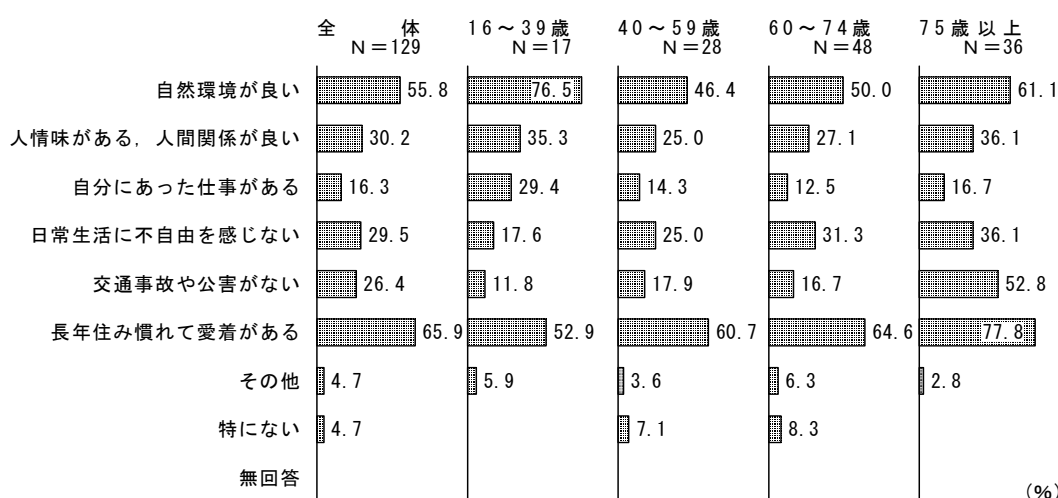


オ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向のある人の住み続けたいと思う理由は、「長年住み慣れて愛着がある」が65.9%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」55.8%の順でこの2項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「人情味がある，人間関係が良い」30.2%，「日常生活に不自由を感じない」29.5%，「交通事故や公害がない」26.4%などの順です。

また，その他の意見の内容をみると，「自然災害がない」，「子どもをのびのびと育てられる」，「この地に生活があるから」，「先祖の財産を守るため」，「高齢で行くところがない」といった点が挙げられています。

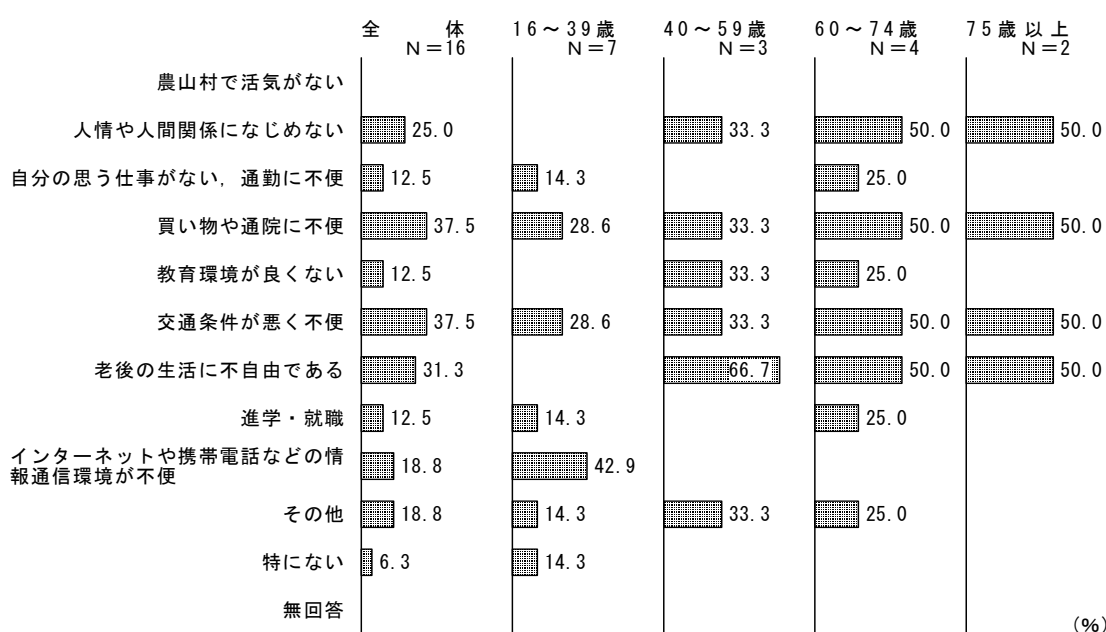
図17 地区に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



カ 地区を転出したいと思う理由

地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由は，「買い物や通院に不便」及び「交通条件が悪く不便」が37.5%で最も割合が高く，次いで「老後の生活に不自由である」31.3%の順でこれら3項目の割合が高くなっています。

図18 地区を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）

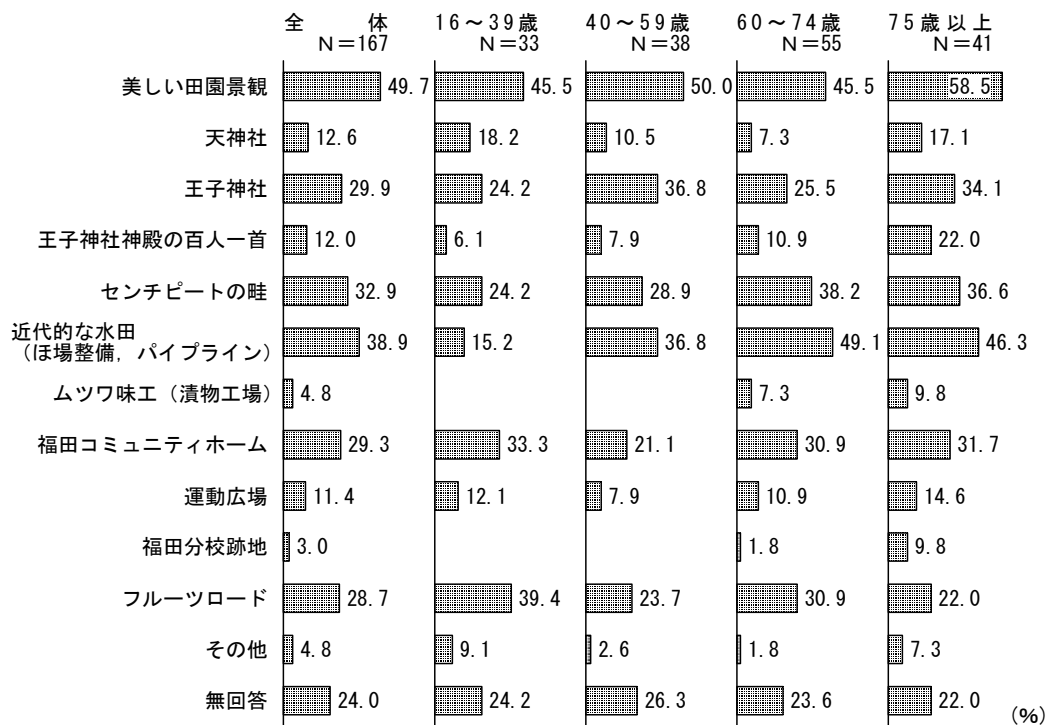


(4) 今後の地区づくりについて

ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源は、「美しい田園景観」が49.7%で最も割合が高く、次いで「近代的な水田（ほ場整備，パイプライン）」38.9%、「センチピートの畦」32.9%、「王子神社」29.9%、「福田コミュニティホーム」29.3%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「フルーツロード」28.7%などになっています。

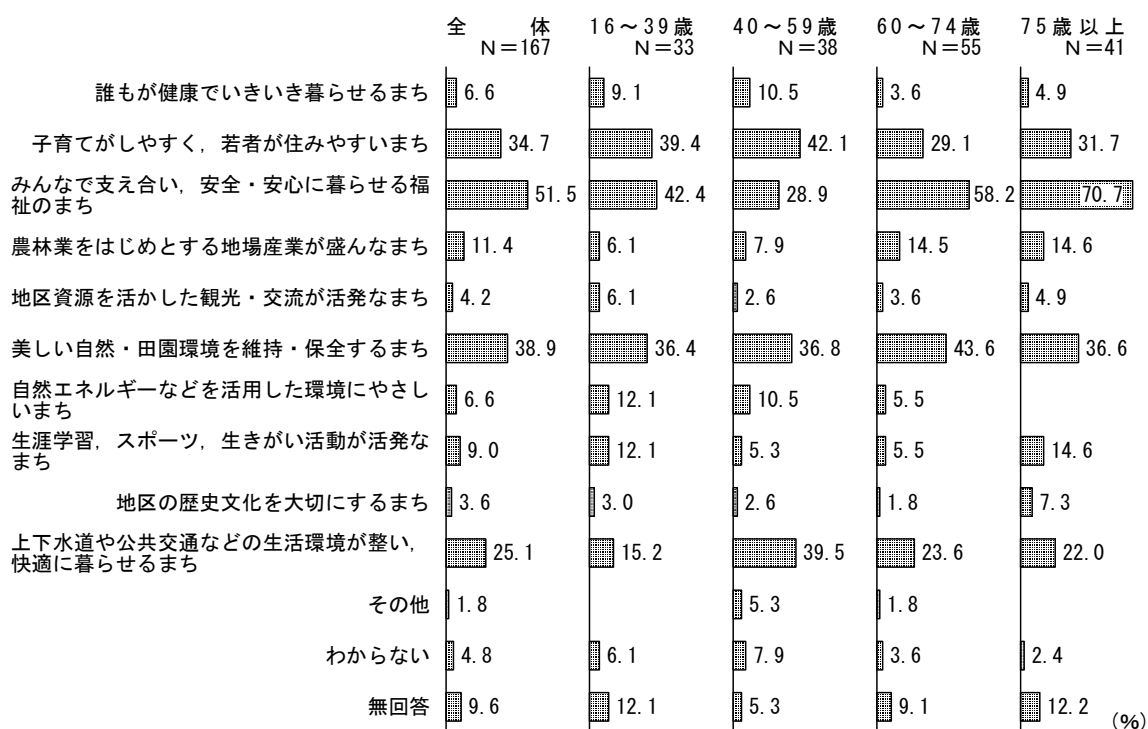
図19 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）



イ 地区の将来像

地区の将来像は、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」が51.5%で最も割合が高く、次いで「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」38.9%、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」34.7%の順で、これら3項目が上位3位を占めています。その他では、「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」25.1%などの順です。

図20 地区の将来像（複数回答：3つ以内）



ウ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと（全体）

<優先順位：第1位>

地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと（優先順位：第1位）は、「イノシシなどの有害鳥獣対策」が19.8%で最も割合が高く、次いで「農業の担い手の育成」9.0%、「農業の振興」8.4%、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」6.0%、「就業の場の確保」5.4%の順で、これら項目が上位5位になっており、農業の振興に関することが上位を占めています。その他では、「地区の担い手の育成、地区組織の活性化」4.8%、「高齢者の見守りなどの日常生活の支援」及び「子どもの見守り活動」3.6%、「高齢者の外出支援」及び「高齢者へ生きがい活動の場、収入の得られる仕事の提供」3.0%などの順です。

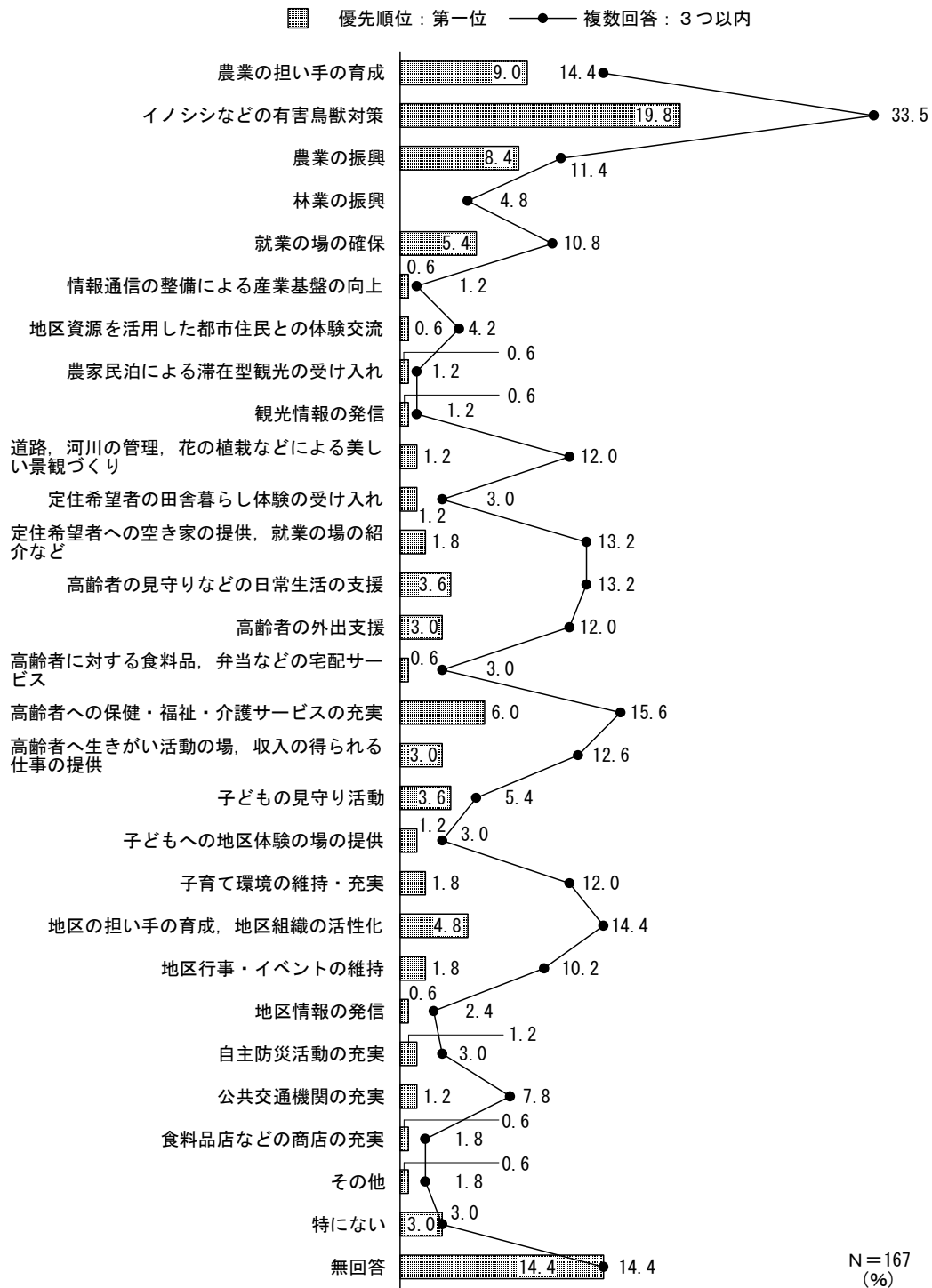
<複数回答：3つ以内>

地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと（複数回答：3つ以内）は、「イノシシなどの有害鳥獣対策」が33.5%で最も割合が高く、次いで「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」15.6%、「農業の担い手の育成」及び「地区の担い手の育成、地区組織の活性化」14.4%、「定住希望者への空き家の提供、就業の場の紹介など」及び「高齢者の見守りなどの日常生活の支援」13.2%の順で、これら項目が上位5位に入っています。その他では、「高齢者へ生きがい活動の場、収入の得られる仕事の提供」12.6%、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」、「高齢者の外出支援」及び「子育て環境の維持・充実」12.0%、「農業の振興」11.4%、「就業の場の確保」10.8%、「地区行事・イベントの維持」10.2%などの順です。

表6 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと（全体）（単位：%）

区 分	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
優先順位 ：第1位	イノシシなどの有害鳥獣対策 19.8	農業の担い手の育成 9.0	農業の振興 8.4	高齢者への保健・福祉・介護 6.0	就業の場の確保 5.4
複数回答 ：3つ以内	イノシシなどの有害鳥獣対策 33.5	高齢者への保健・福祉・介護 15.6	農業の担い手の育成 地区の担い手の育成、地区組織の活性化	14.4	定住希望者への空き家の提供、就業の場の紹介など 高齢者の日常生活の支援 13.2

図21 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと



N = 167 (%)

図22 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと（優先順位：第1位）

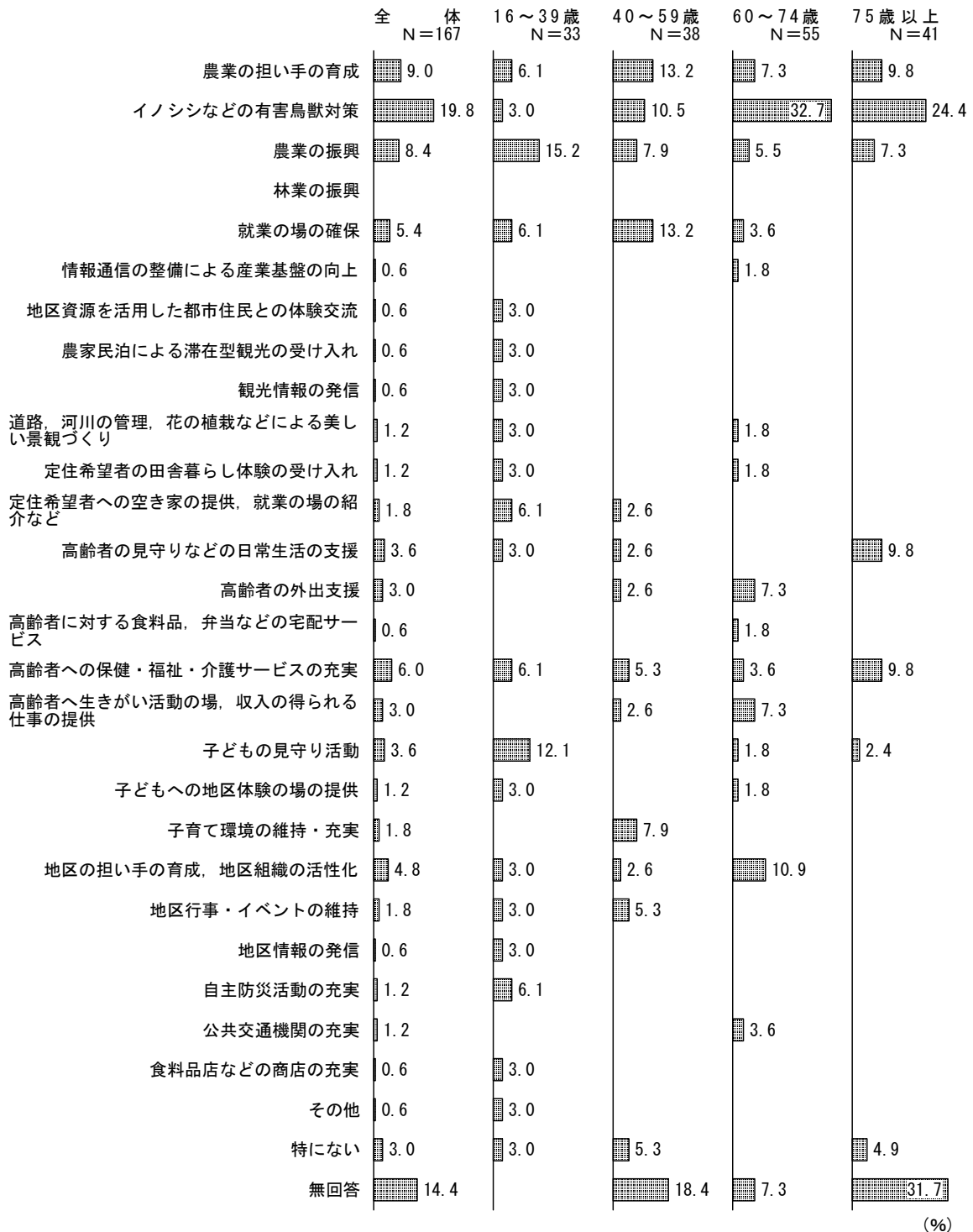
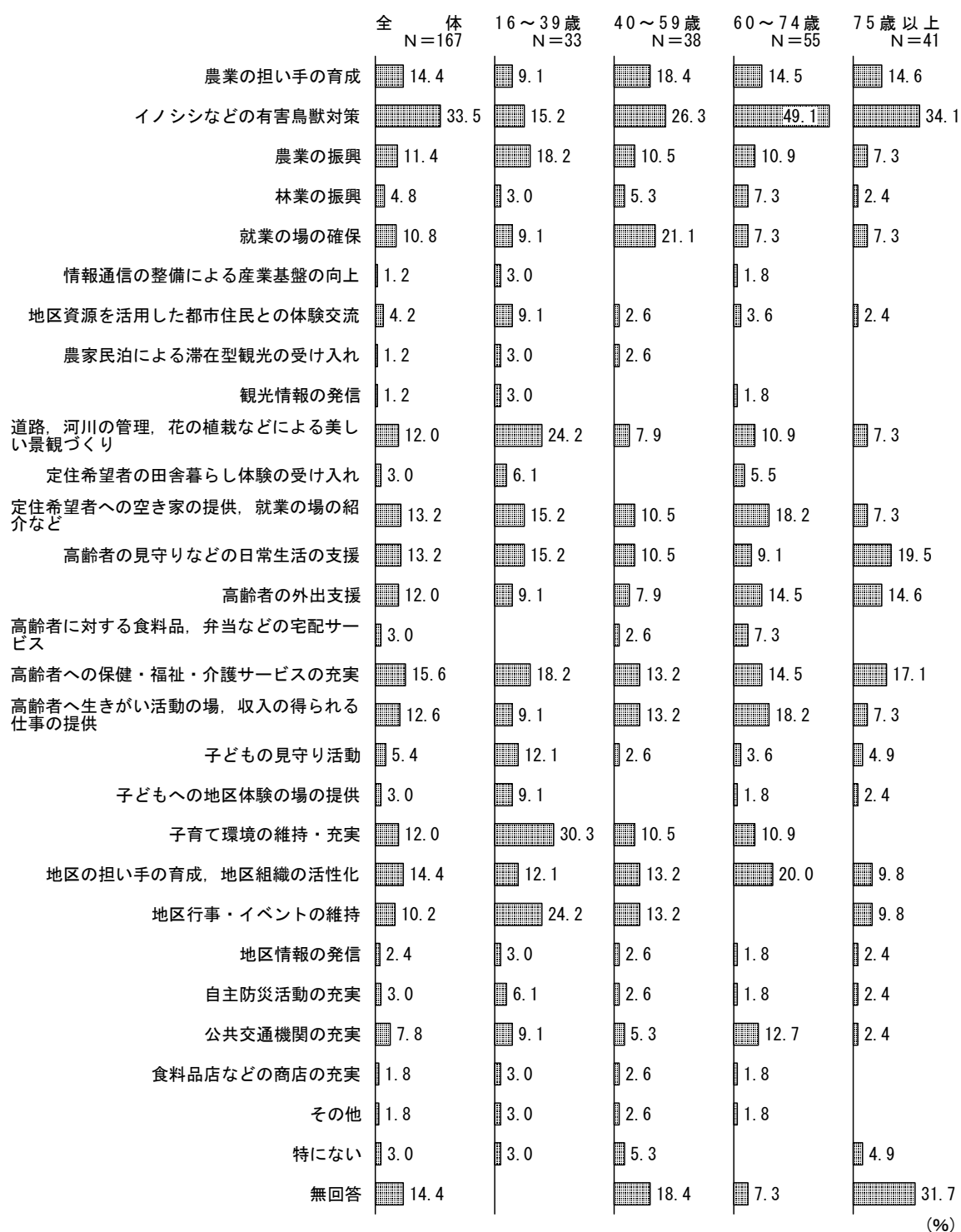


図23 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと（複数回答：3つ以内）

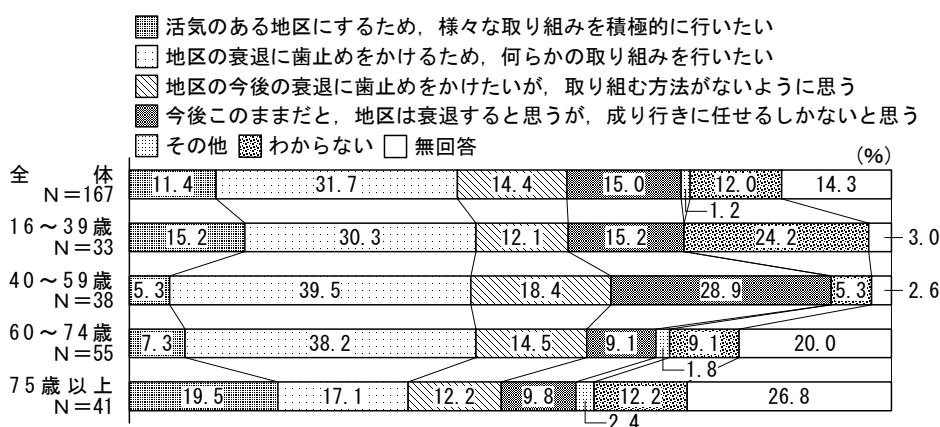


(5) 地区づくりへの参加について

ア 福田地区の活性化に向けての取り組み意向

地区の活性化に向けての取り組み意向については、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」11.4%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」31.7%で、これらを合わせた地区の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は4割強程度です。

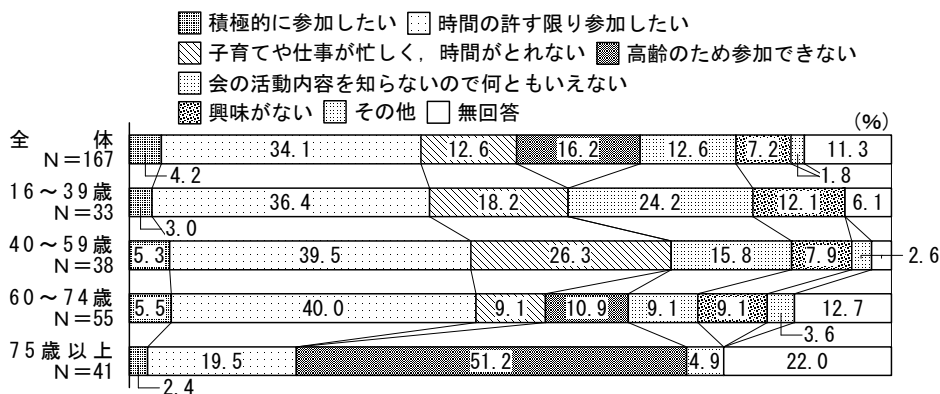
図24 福田地区の活性化に向けての取り組み意向



イ 福田自治振興会の活動への参加意向

福田自治振興会の活動への参加については、「積極的に参加したい」4.2%、「時間の許す限り参加したい」34.1%で、これらを合わせた自治振興会の活動へ参加意向のある人は4割弱程度です。

図25 福田自治振興会の活動への参加意向

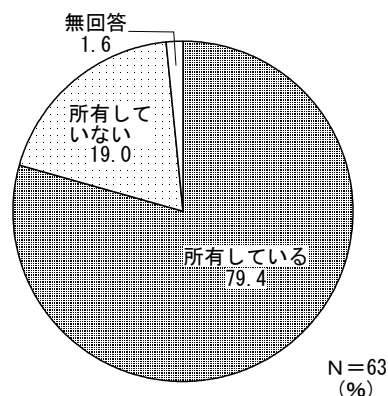


(6) 水田の所有・耕作状況について

ア 水田の所有状況

世帯主であると答えた方で水田を「所有している」と答えた人は約8割です。

図26 水田の所有状況



イ 水田を所有している世帯の状況

(ア) 水田の現在の耕作状況

水田の現在の耕作状況は、「家族で耕作せず、中核農家などに耕作を頼んでいる（貸付、作業委託）」が42.0%で最も割合が高く、次いで「家族で耕作している」30.0%、「家族で耕作するとともに、中核農家などに耕作を頼んでいる（貸付、作業委託）」24.0%、「耕作していない」2.0%の順で、中核農家などに耕作を頼んでいる世帯が約2/3を占めています。

(イ) 水田の今後の耕作意向

水田の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」が44.0%で最も割合が高く、次いで「家族での耕作をやめ、中核農家などに耕作を頼む（貸付、作業委託）」22.0%、「家族での耕作面積を減らし、中核農家などに耕作を頼む面積を増やす（貸付、作業委託）」10.0%、「わからない」8.0%、「今までどおり耕作しない」6.0%の順になっており、今後、中核農家などへの貸付、作業委託のニーズが高まるものと見込まれます。

図27 水田の耕作状況

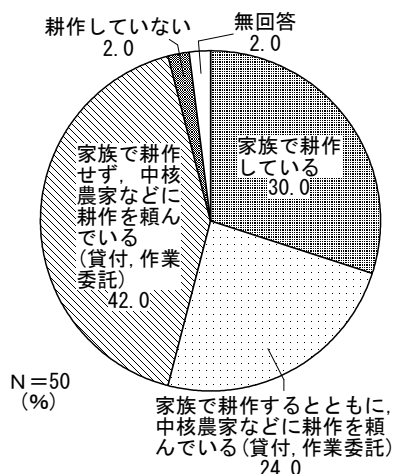


図28 今後の耕作意向

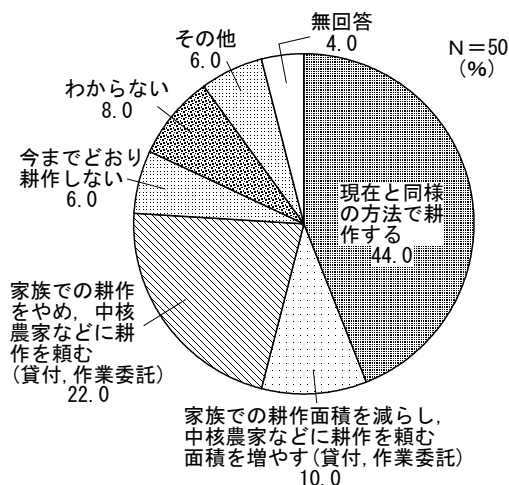


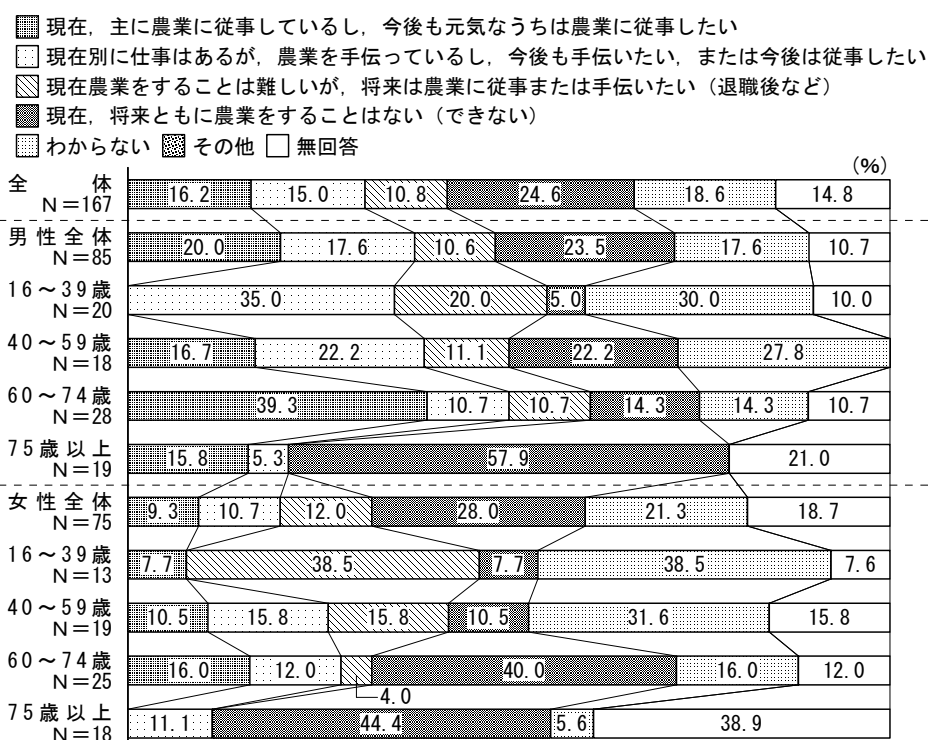
表7 「現在と同様の方法で耕作する」と答えた世帯の現在の耕作方法

耕作方法	世帯(世帯)	割合(%)
家族で耕作している	8	36.4
家族で耕作するとともに、中核農家などに耕作を頼んでいる(貸付, 作業委託)	4	18.1
家族で耕作せず、中核農家などに耕作を頼んでいる(貸付, 作業委託)	10	45.5
合計	22	100.0

ウ 農業への現在の従事状況と今後の従事意向

農業への現在の従事状況と今後の従事意向は、「現在、主に農業に従事しているし、今後も元気なうちは農業に従事したい」16.2%、「現在別に仕事はあるが、農業を手伝っているし、今後も手伝いたい、または今後は従事したい」15.0%、「現在農業をすることは難しいが、将来は農業に従事または手伝いたい(退職後など)」10.8%になっており、今後農業を手伝うまたは従事する意向の人は42.0%です。一方、「現在、将来ともに農業をすることはできない」と答えた人は24.6%です。

図29 農業への現在の従事状況と今後の従事意向



2 小・中学生

(1) 回答者自身について

性別は、「男性」5件（55.6%）、「女性」4件（44.4%）です。

小・中学生別にみると、「小学生」6件（66.7%）、「中学生」3件（33.3%）です。

図30 性別

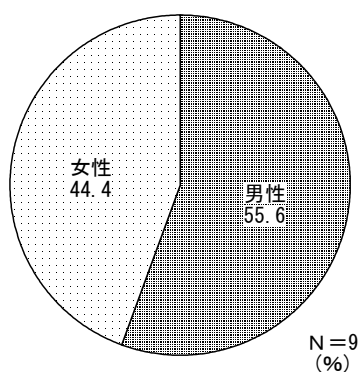
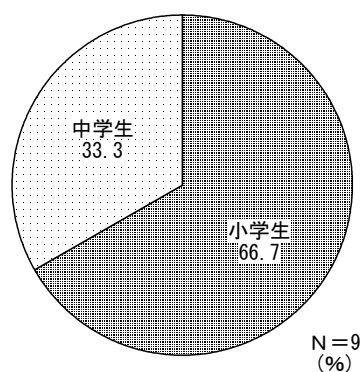


図31 小・中学生別



(2) 地区の住みよさと今後の居住意向

ア 地区のすばらしいところ

地区のすばらしいところを記入した人は6人で、その内容は自然が豊かであること、美しい水田、ホテル、王子神社、行事がいろいろあること、地区の人がやさしいことなどが挙げられています。

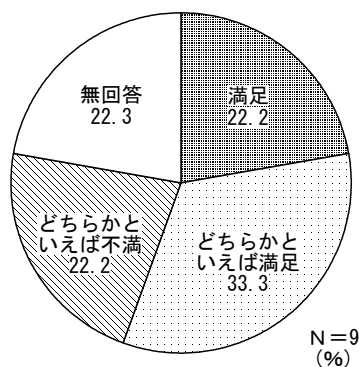
イ 地区の住みよさ等

地区の住みよさは、「満足」2件（22.2%）、「どちらかといえば満足」3件（33.3%）で、これらを合わせた満足している人の割合は5件（55.5%）です。また、「どちらかといえば不満」と答えた人が2件（22.2%）です。

住みよさに満足している理由としては、自然、空気がきれい、車の通行が少なく自転車に乗りやすい、家族が楽しく暮らせていることが挙げられています。

一方、住みよさに不満な理由としては、商店が少ない、子どもが少ない、虫が多い、夜暗い、イベントが少ないことが挙げられています。

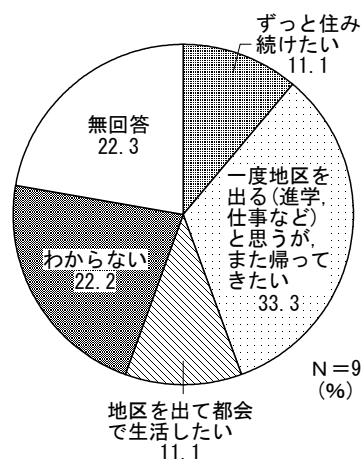
図32 地区の住みよさ



ウ 今後の居留意向

今後の居留意向は、「ずっと住み続けたい」1件（11.1%）、「一度地区を出る（進学，仕事など）と思うが，また帰ってきたい」3件（33.3%）で，地区に住み続ける意向の人が4件（44.4%）となっています。一方，「地区を出て都会で生活したい」1件（11.1%），「わからない」2件（22.2%）となっています。

図33 今後の居留意向

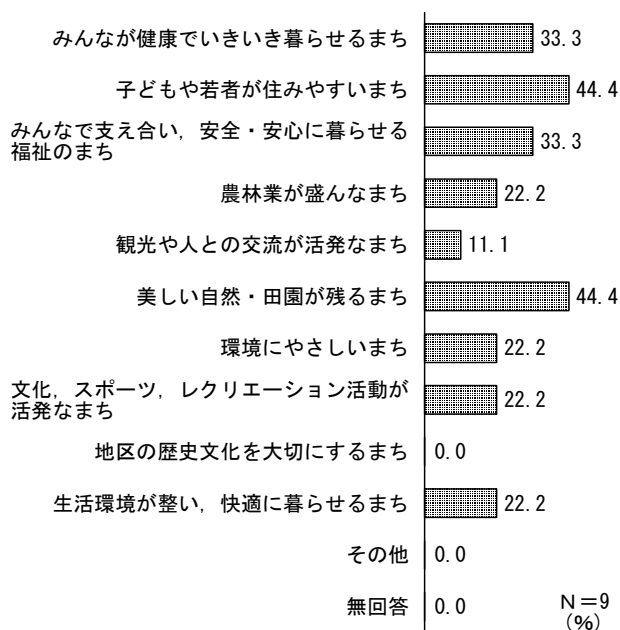


(3) 今後の地区づくりについて

ア 地区の将来像

地区の将来像は，「子どもや若者が住みやすいまち」及び「美しい自然・田園が残るまち」が4件（44.4%）で最も割合が高く，次いで「みんなが健康でいきいき暮らせるまち」及び「みんなで支え合い，安全・安心に暮らせる福祉のまち」3件（33.3%）などの順です。

図34 地区の将来像（複数回答：3つ以内）

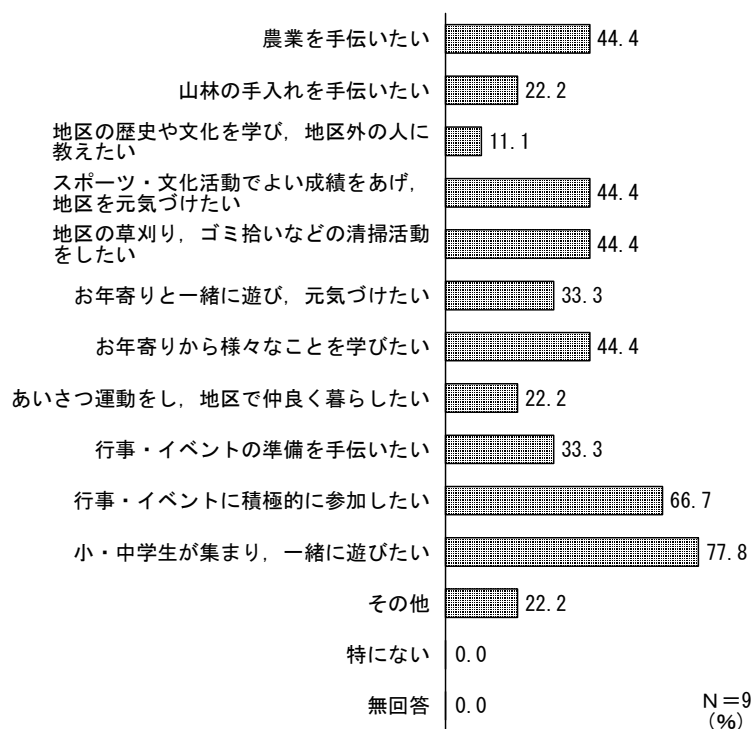


イ 地区を住みよくするためにしたいこと

地区を住みよくするためにしたいことは、「小・中学生が集まり、一緒に遊びたい」が7件（77.8%）で最も割合が高く、次いで「行事・イベントに積極的に参加したい」6件（66.7%）、「農業を手伝いたい」、「スポーツ・文化活動でよい成績をあげ、地区を元気づけたい」、「地区の草刈り、ゴミ拾いなどの清掃活動をしたい」及び「お年寄りから様々なことを学びたい」4件（44.4%）などの順です。

その他では、名物料理をつくりたいという意見がありました。

図35 地区を住みよくするためにしたいこと（複数回答：いくつでも）



ウ 好きな行事

好きな行事としては、とんど祭り、盆踊り、秋祭りが挙げられています。

3 地区出身者

(1) 回答者自身について

ア 性別

回答者の性別は、「男性」25件（89.3%）、「女性」3件（10.7%）で、「男性」がほとんどを占めています。

イ 年齢

年齢は、「20歳代」及び「40歳代」が8件（28.6%）で最も割合が高く、次いで「30歳代」5件（17.8%）、「50歳代」3件（10.7%）、「75～84歳」2件（7.1%）、「18～19歳」及び「60～64歳」1件（3.6%）の順で、60歳未満の人が約9割とほとんどを占めています。

ウ 住まい

住まいは、「広島県内」17件（60.7%）、「広島県外」10件（35.7%）です。広島県内の市町をみると、広島市が6件で最も多く、次いで東広島市5件、三原市（福田地区外）4件などの順です。

図36 性別

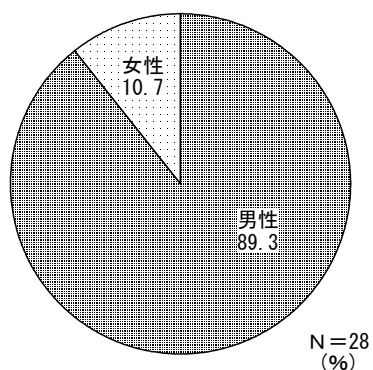


図37 年齢

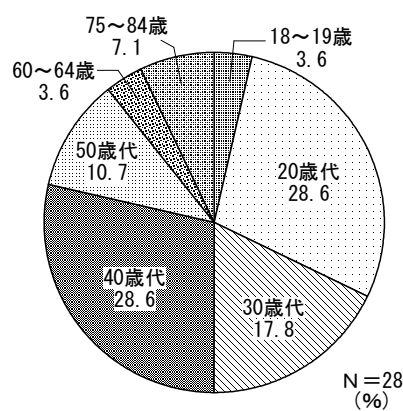


図38 住まい

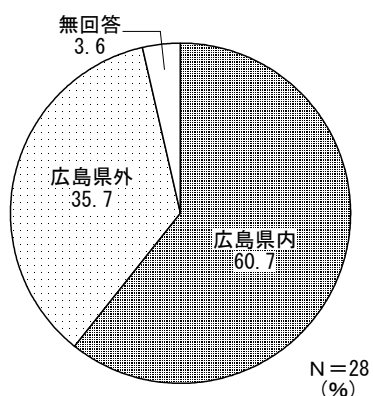


表8 住まいが広島県内の人の内訳

市 町	件数(件)	割合(%)
広島市	6	35.3
東広島市	5	29.4
三原市	4	23.5
府中市	1	5.9
竹原市	1	5.9
合計	17	100.0

エ 地区から転出した時期とその理由

地区からの転出時期は、「19～22歳（大学時代）」が12件（42.9％）で最も割合が高く、次いで「23～29歳」5件（17.9％）、「16～18歳（高校時代）」4件（14.3％）、「30～39歳」3件（10.7％）の順です。

地区から転出した理由は、「就学」が14件（50.0％）で最も割合が高く、次いで「結婚」5件（17.9％）、「新規就職」及び「転勤」1件（3.6％）の順です。

図39 地区から転出した時期

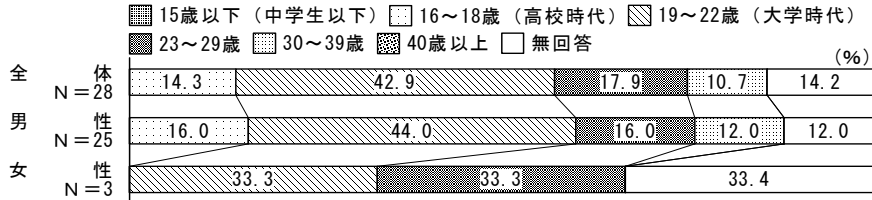
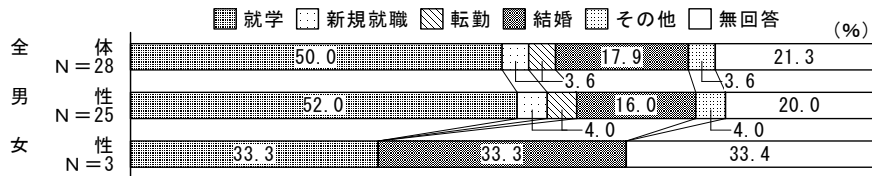


図40 地区から転出した理由



(2) ふるさとへの帰省状況

ア 帰省の回数

ふるさとへの過去1年間の帰省の回数は、「年に数回」が9件（32.1％）で最も割合が高く、次いで「年に1～2回」8件（28.6％）、「月1～2回」7件（25.0％）、「週1回以上」2件（7.1％）、「ほとんど帰らない」1件（3.6％）の順です。

イ 帰省理由

帰省理由は、「墓参り，親戚訪問」が15件（57.7％）で最も割合が高く、次いで「家族との交流，絆づくり」14件（53.8％）の順で、この2項目が5割以上になっています。その他では、「保養，ゆっくりする」11件（42.3％）、「家事，草刈り等の手伝い」9件（34.6％）、「祖父母，親の世話をする」及び「冠婚葬祭」6件（23.1％）などの順です。

図41 過去1年間の帰省の回数

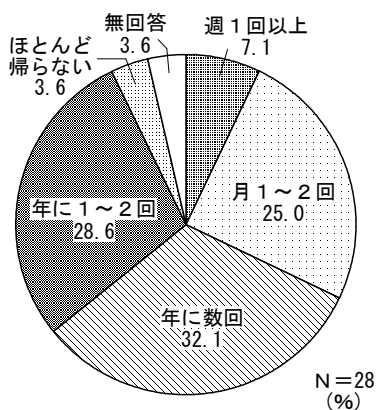
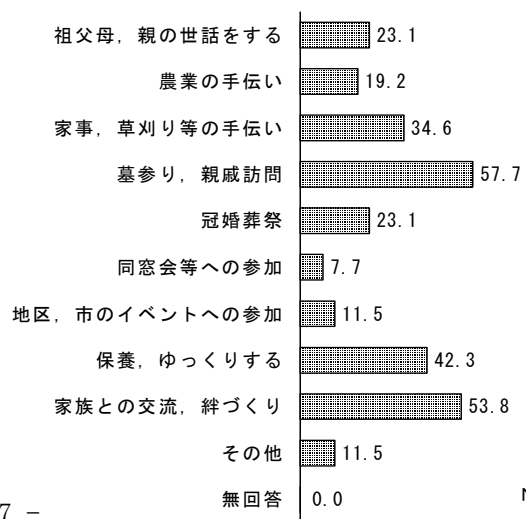


図42 帰省理由（複数回答：いくつでも）



(3) ふるさとへの関心

ア 行事・イベント

行事・イベントへの参加意向は、「参加したい」3件（10.7%）、「時々参加したいと思う」12件（42.9%）で、これらを合わせた参加意向のある人の割合は5割以上です。

行事・イベントに参加する意向のある人の参加したい行事・イベントは、「正月行事（初詣）」及び「盆踊り」が8件（53.3%）で最も割合が高く、次いで「とんど祭り」7件（46.7%）、「秋祭り」5件（33.3%）などの順です。

図43 行事・イベントへの参加意向

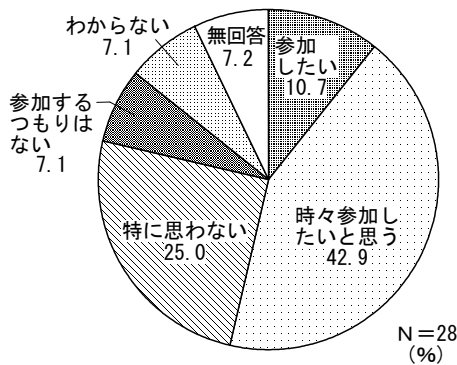
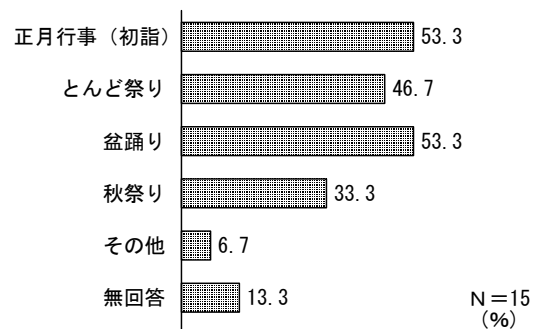


図44 参加したい行事・イベント
(複数回答：いくつでも)



イ ふるさとの情報

「ふるさとの情報を定期的に欲しい」と答えた人は9件（32.1%）です。

ふるさとの情報が定期的に欲しいと答えた人の欲しいふるさとの情報は、「行政のうごき」及び「地区内の話題」が5件（55.6%）で最も割合が高く、次いで「地区内の行事・イベント情報」3件（33.3%）、「特産品等の情報」及び「住宅、空き家情報」2件（22.2%）などの順です。

図45 ふるさとの情報の希望の有無

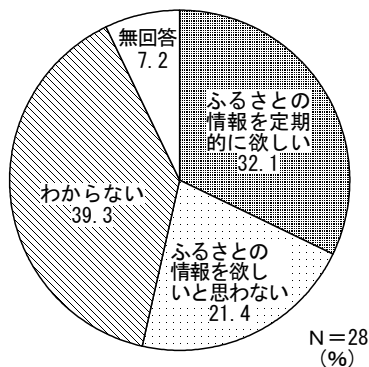
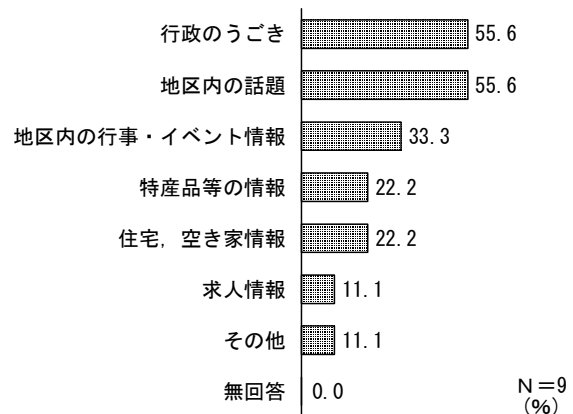


図46 欲しいふるさとの情報
(複数回答：いくつでも)



ウ ふるさとへの帰郷意向

将来のふるさとへの帰郷意向は、「5～10年以内に帰郷したい」3件（10.7%）、「将来は帰郷したい」6件（21.4%）で、これらを合わせた帰郷意向のある人の割合は約1/3になっています。また「週末など、年間のうち一定期間帰郷しようと思う」が3件（10.7%）です。一方、「帰郷は考えていない」3件（10.7%）、「わからない」11件（39.3%）になっています。

男女別に帰郷意向のある人の割合をみると、男性8件（32.0%）、女性1件（33.3%）です。

年齢別に帰郷意向のある人の割合をみると、18～39歳4件（28.6%）、40～59歳4件（36.4%）、60歳以上1件（33.3%）で、各年齢層ともに3割前後になっています。

住まい別に帰郷意向のある人の割合をみると、広島県内8件（47.0%）、広島県外1件（10.0%）で、広島県内の割合が高くなっています。

図47 ふるさとへの帰郷意向

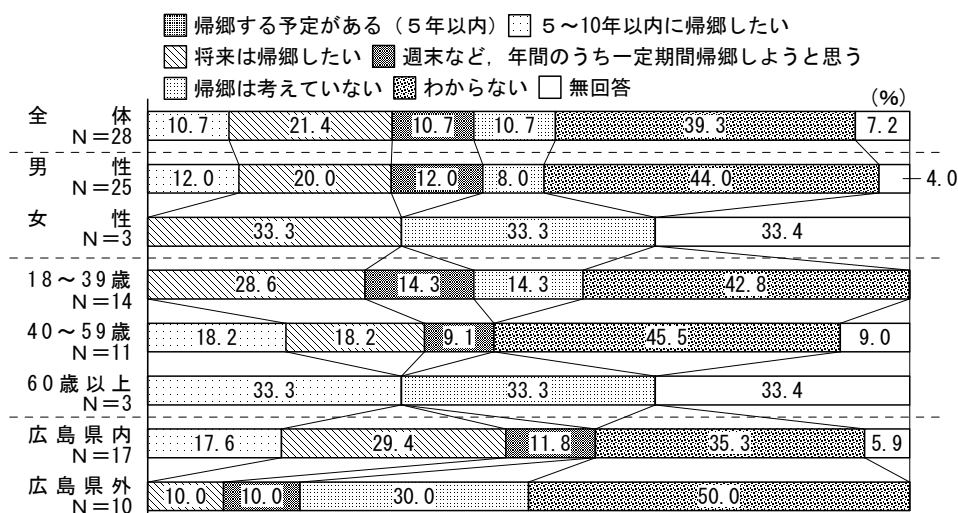


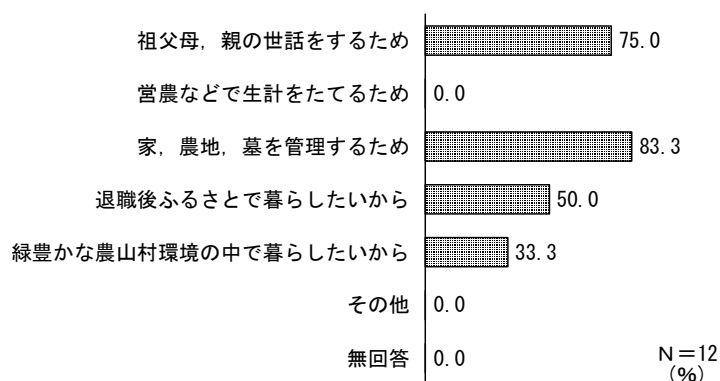
表9 ふるさとへの帰郷意向

帰郷意向	性別	年齢
5～10年以内に帰郷したい	男性	40歳代
	男性	40歳代
	男性	60～64歳
将来は帰郷したい	男性	20歳代
	男性	30歳代
	男性	30歳代
	男性	40歳代
	男性	40歳代
	女性	20歳代
週末など、年間のうち一定期間帰郷しようと思う	男性	20歳代
	男性	20歳代
	男性	40歳代

エ 帰郷したいと思う理由

帰郷したいと答えた人の理由は、「家、農地、墓を管理するため」10件（83.3%）、「祖父母、親の世話をするため」9件（75.0%）で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「退職後ふるさとで暮らしたいから」6件（50.0%）、「緑豊かな農村環境の中で暮らしたいから」4件（33.3%）の順です。

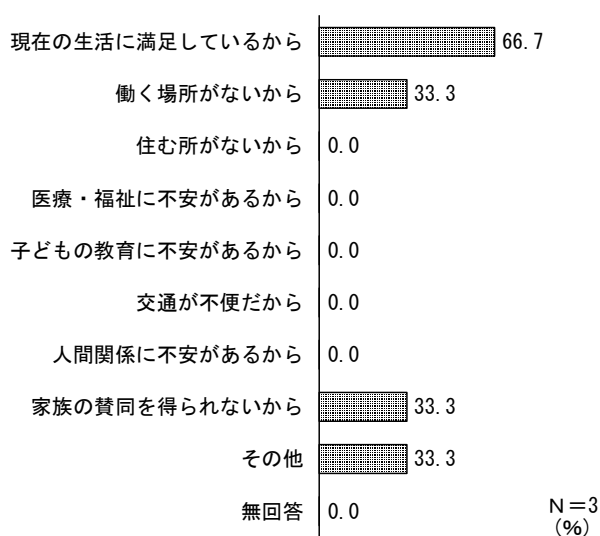
図48 帰郷したいと思う理由（複数回答：いくつでも）



オ 帰郷を考えていない理由

帰郷を考えていない人の理由は、「現在の生活に満足しているから」が2件（66.7%）で2/3を占めており、その他では「働く場所がないから」及び「家族の賛同を得られないから」1件（33.3%）の順です。

図49 帰郷を考えていない理由（複数回答：いくつでも）



(4) 住宅・農地の管理, 活用について

ア 住宅の管理, 活用意向

住宅を相続または管理するようになった時の住宅の管理・活用に係る意向をみると、「何ともいえない, わからない」が9件(32.1%)で最も割合が高くなっています。その他では、「自分が帰省したときに管理する」7件(25.0%),「自分が帰郷して管理する」5件(17.9%),「売却する」及び「相続する予定はない」1件(3.6%)などの順で,自分が帰郷または帰省して管理すると答えた人が4割以上となっています。

イ 農地の管理, 活用意向

農地を相続または管理するようになった時の農地の管理, 活用に係る意向をみると、「何ともいえない, わからない」が11件(39.3%)で最も割合が高くなっています。その他では、「中核農家や農事組合法人などに管理を委ねる」6件(21.4%),「自分が帰郷して農作業を行う」5件(17.9%),「実家の近く(福田地区)に住んでいる家族, 親族に管理してもらう」,「売却する」及び「相続する予定はない」1件(3.6%)の順です。

図50 住宅の管理・活用意向

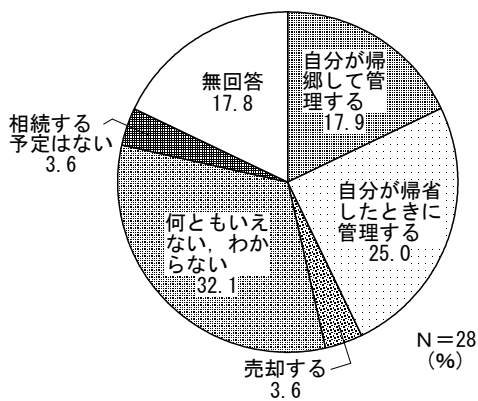
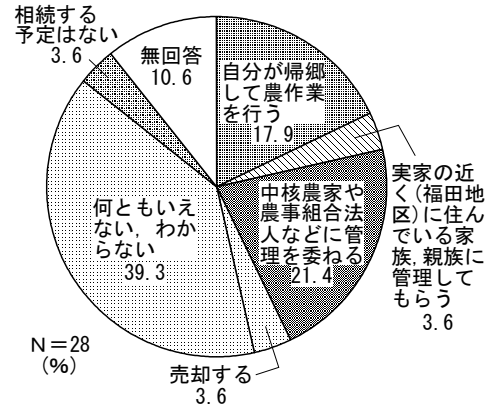


図51 農地の管理・活用意向



(5) ふるさとの今後の地区づくりについて

ア ふるさとで自慢したいもの・次世代に伝えたい資源

ふるさとで自慢したいもの・次世代に伝えたい資源は、「美しい田園景観」が16件（57.1%）で最も割合が高くなっています。その他では、「フルーツロード」9件（32.1%）、「王子神社」7件（25.0%）、「センチピートの畦」及び「近代的な水田（ほ場整備、パイプライン）」5件（17.9%）、「福田コミュニティホーム」及び「運動広場」3件（10.7%）などの順です。

16歳以上の住民の地区で大事にしたい、活用したい資源に関する意見と比較すると、「美しい田園景観」、「フルーツロード」、「王子神社」の3項目は概ね割合が同様になっていますが、「センチピートの畦」、「近代的な水田（ほ場整備、パイプライン）」及び「福田コミュニティホーム」については、地区出身者の割合が低くなっています。

図52 ふるさとで自慢したいもの・次世代に伝えたい資源（複数回答：いくつでも）

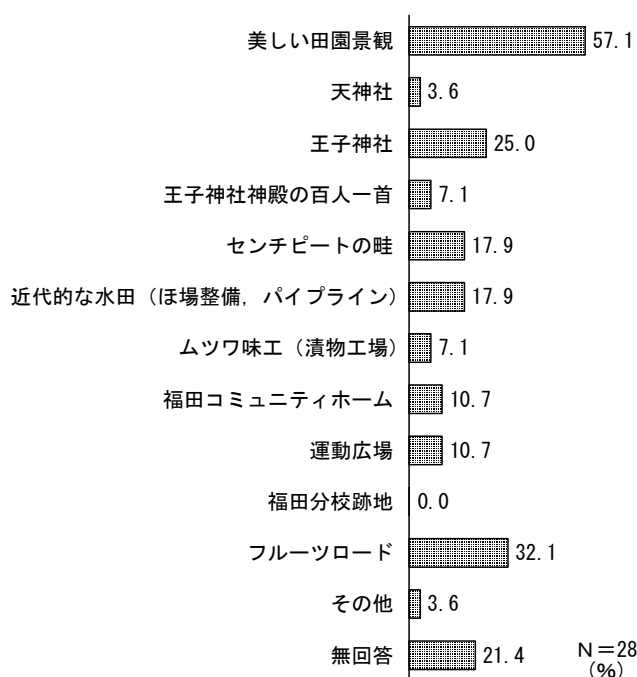


表10 地区の資源に関する意見の比較
(単位：%)

項目	地区出身者	16歳以上の住民
美しい田園景観	57.1	49.7
フルーツロード	32.1	28.7
王子神社	25.0	29.9
センチピートの畦	17.9	32.9
近代的な水田	17.9	38.9
福田コミュニティホーム	10.7	29.3
運動広場	10.7	11.4
王子神社神殿の百人一首	7.1	12.0
ムツワ味工（漬物工場）	7.1	4.8
天神社	3.6	12.6
福田分校跡地	0.0	3.0

イ ふるさとの将来像

ふるさとの将来像は、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」が10件（35.7%）で最も割合が高く、次いで「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」，「みんなで支え合い，安全・安心に暮らせる福祉のまち」及び「上下水道や公共交通などの生活環境が整い，快適に暮らせるまち」9件（32.1%）の順で，これら4項目の割合が高くなっています。

16歳以上の住民の意見と比較すると，「地区資源を活かした観光・交流が活発なまち」及び「上下水道や公共交通などの生活環境が整い，快適に暮らせるまち」の割合が高い一方で，「みんなで支え合い，安全・安心に暮らせる福祉のまち」及び「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」が低くなっています。

図53 ふるさとの将来像（複数回答：3つ以内）

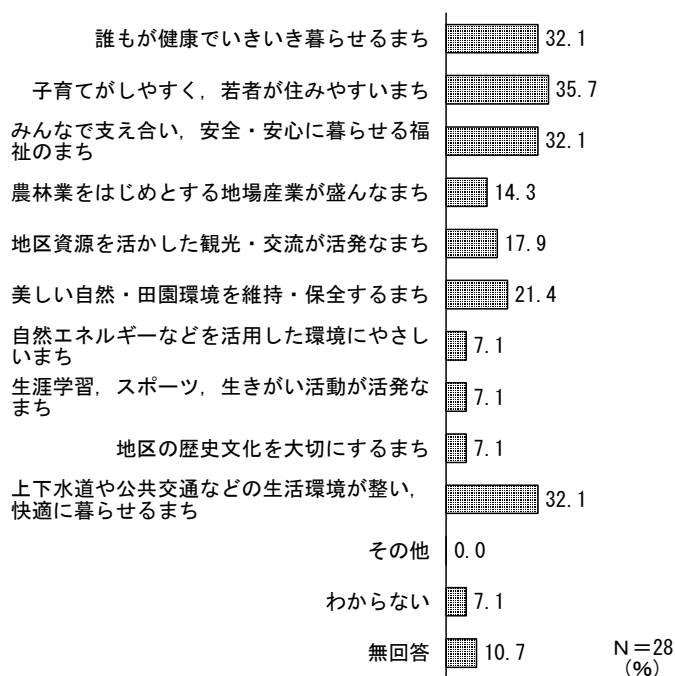


表11 地区の将来像に関する意見の比較

(単位：%)

項目	地区出身者	16歳以上の住民
子育てがしやすく、若者が住みやすいまち	35.7	34.7
誰もが健康でいきいき暮らせるまち		6.6
みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち	32.1	51.5
上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち		25.1
美しい自然・田園環境を維持・保全するまち	21.4	38.9
地区資源を活かした観光・交流が活発なまち	17.9	4.2
農林業をはじめとする地場産業が盛んなまち	14.3	11.4

3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

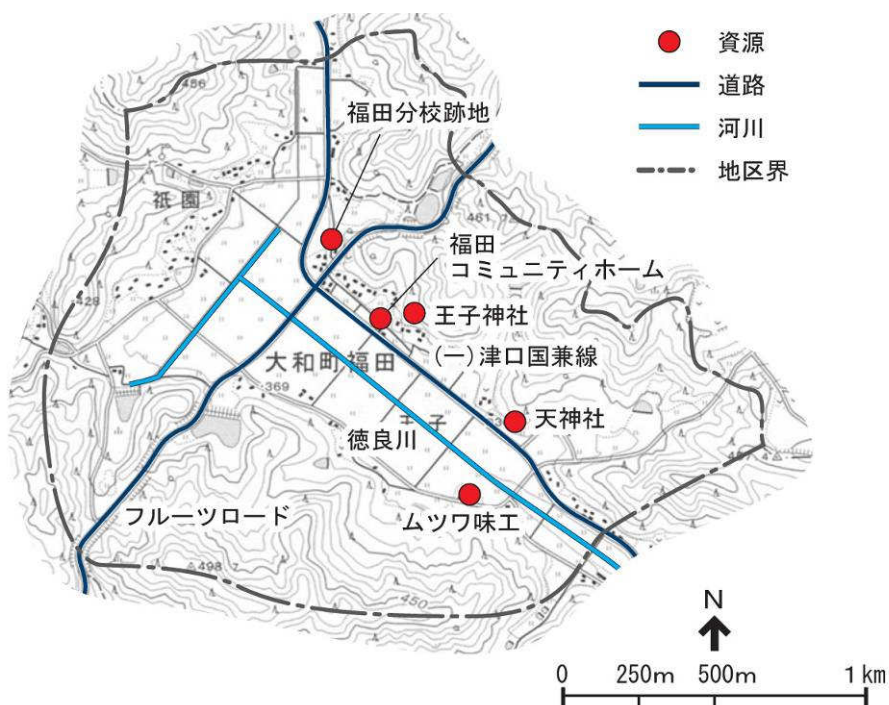
1 地区の魅力・資源

アンケート調査結果及び地区活性化意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表12 地区の魅力・資源

区分	地区の魅力・資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ・なだらかな山並み。 ・ため池。
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事が続いている。 ・天神社境内の桜並木。 ・王子神社神殿の百人一首。
農地・農業	<ul style="list-style-type: none"> ・近代的な水田（ほ場整備，パイプライン，センチピートグラスの畦）。 ・ムツワ味工の工場（漬物）。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・フルーツロード（三原市大和地域及び世羅町の中心部までアクセスしやすい）。 ・大和ふれあいタクシー（公共交通手段）。 ・美しい田園景観。
地区活動・近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> ・福田コミュニティホーム。 ・子ども会，青年会，女性会，長寿会，福々えがお（高齢者サロン）などの地区組織の活動が活発である。 ・協力体制がある，情報を共有しやすい人間関係がある。 ・子どもが比較的多く，核家族が少ない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・福田分校跡地。 ・空き家。 ・災害が少ない。 ・超高速情報通信網（光回線）。

図54 地区の魅力・資源



2 地区の問題点・課題

アンケート調査結果及び地区活性化意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表13 地区の問題点・課題

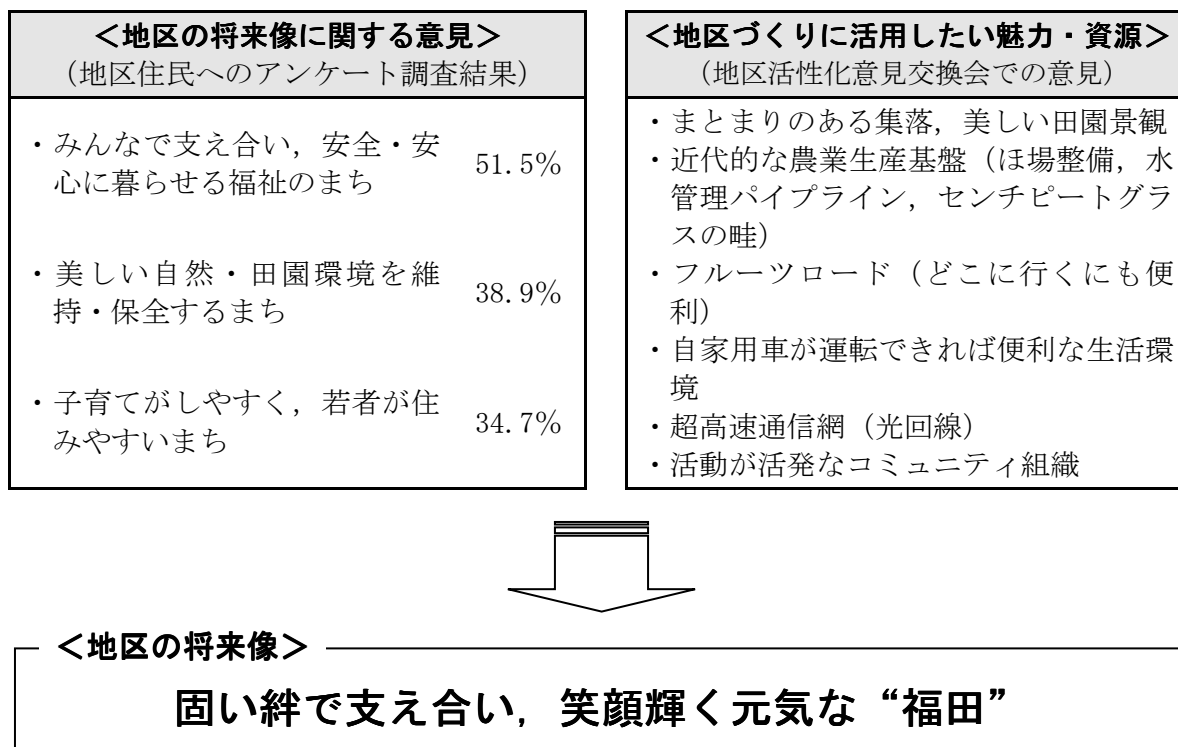
区分	地区の問題点・課題
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし、高齢者のみの世帯が増加しており、支援が必要になっている。 高齢者の交流が少ない（引きこもり）。 運転できなくなった時の生活が不安である。 大和ふれあいタクシーのみでは交通手段が不便である。 大和ふれあいタクシーの利用方法を知らない人がいる。
若者の定住、子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> 集落の近くに子どもの遊び場がない。運動広場は遠い。 公共交通機関がないので、高校生を保護者がJR駅まで送迎せざるを得ない。 中学生の自転車通学の下校（暗くなってから）に不安がある。
農地管理・農業	<ul style="list-style-type: none"> 農業は国政レベルの問題が多く、地区で解決することが難しい。 イノシシなどの有害鳥獣被害対策を強化する必要がある。 高齢者のみの世帯において農地管理が困難化している。 農業の担い手はいるが、組織化できていない。 農産物加工の取り組みが不十分である。
山林管理・林業	<ul style="list-style-type: none"> 山林が放置され、荒地化している。 山林管理が不十分なことがイノシシ被害を拡大している。
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> フルーツロードを走る車の速度が速く、交通事故の不安がある。 フルーツロードと一般県道津口国兼線の交差点に信号機がなく危険である。 運動広場は場所が離れており、利用しづらい。 空き家が増加しており、活用方法を検討する必要がある。 医療機関が近くにない（特に、小児科）。 上下水道が未整備である。 防犯灯が少ないため、夜暗い。 山沿いの道路に不審車両が駐車している。
地区活動	<ul style="list-style-type: none"> 近隣関係が希薄化している。 とんどを4地区で分散して行っているため、1地区あたりの参加者が少ない。 地区行事がマンネリ化するとともに参加者が固定化している。 地区行事開催に対する役員の負担が増大しており、行事の見直しが必要である。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 地区出身者との交流が少ない。 地区の魅力を発信できていない。

4章 地区の活性化計画

1 地区の将来像

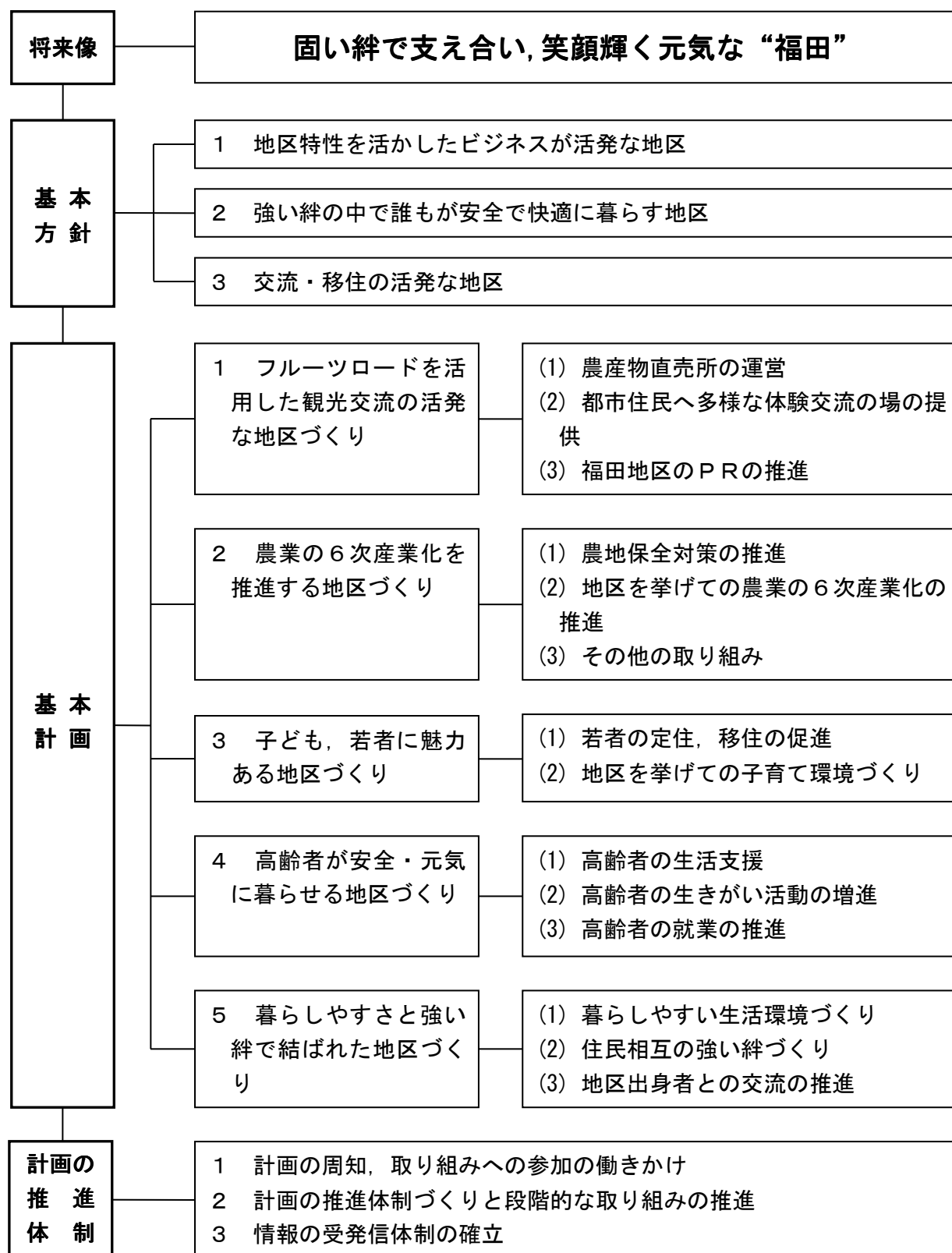
地区の将来像は、アンケート調査結果での地区の将来像に関する意見と地区活性化意見交換会（ワークショップ）での地区づくりの方向に関する意見を踏まえて、「**固い絆で支え合い、笑顔輝く元気な“福田”**」を掲げます。

図55 地区の将来像



地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本方針，基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図56 地区づくりの体系



2 地区づくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

1 地区特性を活かしたビジネスが活発な地区

- ・ フルーツロード（世羅町観光の主要なアクセスルート）を活用して、観光交流を活発に推進する地区（美しい田園景観，農林産物の直売，農林業体験等の地区体験の提供等）
- ・ 近代的な農業生産基盤と若い担い手を中心とする集団営農体制のもとで農業の6次産業化を推進する地区
- ・ 情報通信基盤を活用する事業者などが移住する地区

2 強い絆の中で誰もが安全で快適に暮らす地区

- ・ 子ども，若者が暮らしやすく，地区への郷土愛と誇りが醸成される地区
- ・ 住民相互の支え合い，助け合いの中で高齢者が安全安心に暮らせる地区
- ・ 地区情報が住民に共有され，誰もが地区行事に積極的に参加するとともに，住民ニーズを踏まえた地区活動を行う地区
- ・ 地区の象徴である美しい田園景観を保全，維持する地区

3 交流・移住の活発な地区

- ・ 地区出身者が地区づくり（土地，建物の管理，地区行事への参加，特産品の購入等）に協力するとともに，帰郷して地区の担い手として活躍する地区
- ・ 広域的な情報発信，交流を通じて，都市住民が移住する地区

3 地区づくりの基本計画

地区の将来像及び基本方針を踏まえて、地区づくりの基本計画においての5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容はアンケート調査結果、地区活性化意見交換会（ワークショップ）での意見をもとにとりまとめたものです。

1 フルーツロードを活用した観光交流の活発な地区づくり

(1) 農産物直売所の運営

ア 農産物直売所の運営

- ・フルーツロードの通過客（世羅町への来訪客）をターゲットにし、農家の所得の向上、高齢者の生きがい対策、都市住民との交流などを目的として、農産物直売所の設置・運営事業に取り組みます。
- ・当初は、福田コミュニティホームの敷地を活用し、軽トラック市として取り組みます。
- ・商品としては、農家が自家用として栽培した野菜、地元企業が製造した漬け物の販売から取り組み、元気な高齢者を担い手とした野菜の生産体制を確立します。

表14 重点的に取り組みたい事業1

事業名称	農産物直売所運営事業
事業目的	・農家の所得向上 ・高齢者の生きがい対策 ・都市住民（世羅町来訪客）との交流 ・自治振興会の資金づくり
事業内容	・福田コミュニティホームの敷地を活用した軽トラック市の開催 ・営業日：土曜日・日曜日・祝日 ・商品：野菜などの農林産物、漬物など
事業の年次計画	・初年度：準備組織の設立、先進地視察、運営組織、農林産物出荷組織の設立 備品購入（幟旗、看板、テント、テーブル、イス等） 福田ふれあい市（仮称）のPR（インターネット、チラシ等） ・2年度：運営開始、評価・改善
その他の留意事項	・農林産物出荷農家の確保、主力商品になる野菜の計画生産

イ 農産物直売所の段階的な拡充

- ・福田コミュニティホームでの軽トラック市の開催と合わせて、フルーツロード沿いでの農産物直売所の設置・運営に向けた取り組みを行います。

< 3～5年後の目標 >

- ・フルーツロード沿いへの用地の確保、農地転用手続き、敷地造成
- ・仮設販売所（テント屋根等）の設置
- ・営業日の拡大（土曜日・日曜日・祝日だけでなく平日の営業（週3～5日））
- ・年間を通じた農林産物の確保（野菜の計画生産）

<長期目標>

- ・農産物直売所の施設整備
- ・農産物直売所一帯への地区交流拠点施設，イベント広場などの整備，コンビニエンスストア，カフェなどの誘致
- ・毎日営業
- ・農林産物，加工品をはじめとする商品の拡充

(2) 都市住民へ多様な体験交流の場の提供

- ・農産物直売所への立ち寄り客に地区を楽しんでもらうために，市民農園，体験農園，農家レストランなどの整備に取り組みます。その際，担い手として高齢者の参加を促進します。
- ・ため池一帯の釣り場環境の整備（草刈り，自販機の設置等），地区で利用が難しい運動広場のフットサル場としての活用などを検討します。
- ・里山を活用した交流の場（栗園，フィールドアスレチック等）づくりに取り組みます。
- ・世羅町～フルーツロード～広島空港～広島駅を連絡する高速バスの運行を働きかけ，広域からの来訪客の集客に取り組みます。

(3) 福田地区のPRの推進

- ・フルーツロードを通過する人に対して福田地区を印象づけるために，地区の案内看板，フルーツロード及び丸子山一帯などへのイルミネーションの設置などに取り組みます。
- ・福田地区を広域的にPRするため，インターネットを活用して観光交流情報の発信に取り組みます。

2 農業の6次産業化を推進する地区づくり

(1) 農地保全対策の推進

ア 有害鳥獣対策の推進

- ・行政、農協、生産者の連携による有害鳥獣対策に取り組みます。
- ・猟銃免許取得補助、捕獲罠の設置、ワイヤーメッシュで集落を囲うなどの有害鳥獣対策に取り組みます。

イ 農地管理体制の確立

- ・福田地区中山間地域振興組合、福田保全会などの組織による農地管理の充実に取り組みます。
- ・近代的な水田を活用して農業の振興を図るため、共同運営組織の育成に取り組みます。

表15 重点的に取り組みたい事業2

事業名称	共同運営組織育成支援事業
事業目的	・近代的な水田を有効に活用するため、農地の管理、農業の振興に地区が一体となって取り組む体制づくり
事業内容	・準備会の設立 ・共同運営組織の検討、集約化する農地の把握、運営計画の検討 ・共同運営組織の設立 ・農業の6次産業化に向けた取り組み
事業の年次計画	・初年度：準備委員会の設立、先進地の視察・研究、農家の意向調査、農家研修会の開催、共同運営組織の検討 ・2年度：事務所、倉庫、農業機械の確保、運営組織づくり ・3年度：事業開始、評価・改善
その他の留意事項	・人材、農業機械の購入などの初期投資の確保

(2) 地区を挙げての農業の6次産業化の推進

- ・設立される共同運営組織と連携して、農産物の多品目栽培、新たに設置する「農産物直売所」と連携した農産物の販売、多様な販路の開拓（消費者への産直、道の駅との連携、インターネット販売など）に取り組みます。
- ・「こだわりの広島の幸」に認定されている漬物を製造している地元企業などと連携して農業の6次産業化（生産・加工・販売）に取り組みます。

(3) その他の取り組み

- ・イノシシ、シカなどの有害鳥獣を材料とするジビエ料理レストランの開業、革製品への加工を検討します。

3 子ども、若者に魅力ある地区づくり

(1) 若者の定住、移住の促進

- ・ 情報通信基盤（光回線）が整備されている地区の特性を活かし、こうした基盤を活用して仕事ができる人材の移住促進に取り組みます。
- ・ 地元企業と連携して若者の就業の場づくりに取り組みます。
- ・ 移住希望者の住宅を確保するため、行政と連携して地区の空き家を提供できる仕組みづくりに取り組みます。

(2) 地区を挙げての子育て環境づくり

- ・ 地区の中心部へ子どもが安心して遊ぶことができる広場の整備（ゲートボール場跡地、福田コミュニティホーム一帯など）に取り組みます。また、高齢者、保護者が協力して手作りの木製遊具づくりに取り組みます。
- ・ 高齢者の知識、経験を活用して地区の歴史文化の継承、農林業体験の提供などに取り組み、地区に愛着と誇りを持った子ども、若者を育成します。
- ・ 小・中学生の学力の向上を図るため、近隣地区と連携しながら学習塾の設置・運営を支援します。
- ・ 地区の子ども一人ひとりの名前がわかる近隣関係づくりを進め、地区全体で子育てに取り組みます。

表16 重点的に取り組みたい事業3

事業名称	高齢者と子ども、若者交流推進事業
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世代間交流の推進 ・ 高齢者の知識、経験を活用して地区に愛着と誇りを持つ子ども、若者の育成 ・ 高齢者の生きがい活動の場づくり ・ 子どもが主役になれる場づくり
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民参加を促進するため、自治振興会、子ども会、女性会、長寿会、福々えがお（高齢者サロン）などが行っている行事のPR体制を強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織間の情報共有、協力体制の強化 ・ 住民へのPR活動の強化（福田新聞（仮称）、子どもによるPR放送、インターネットの活用等） ・ 各行事に子どもが主役になる場を用意し、子育て世代の参加を推進するなど、既存行事を全員参加型行事へ見直し（例）グラウンド・ゴルフ、花見（長寿会）・盆踊り、敬老会（自治振興会）・クリスマス会（子ども会）等 ・ 地区の歴史文化の継承、農林業体験の提供など地区学習プログラムづくりを行い、地区組織が役割分担して研修会を開催 ・ 高齢者が昔遊びを子どもたちに伝え、一方で子どもたちが高齢者に今の遊びを教えるなど、それぞれが学び合うことができる企画を検討
事業の年次計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初年度：準備会の設立、先進地の視察・研究、既存行事の見直し、地区学習プログラムづくり、地区組織の協力体制づくり、PR方法の検討 ・ 2年度：事業開始（可能なことから段階的に実施）、評価・改善
その他の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区組織の連携体制づくり、子どもの参加の確保

4 高齢者が安全・元気に暮らせる地区づくり

(1) 高齢者の生活支援

ア 高齢者の見守りの推進

- ・一人暮らし、夫婦二人暮らしなど高齢者のみで暮らしている世帯について、民生委員・児童委員を中心としながら地区住民が様々な形で声かけする体制の充実に取り組みます。

イ 高齢者が利用しやすい交通手段の確保

- ・大和ふれあいタクシーの利用方法がわからない高齢者がいることから、利用方法の周知を図るとともに、大和ふれあいタクシーの運行の充実に関係機関と連携して取り組みます。
- ・大和地域内及び世羅町中心部などの大和地域外への利便性の向上を図るため、地区住民が自家用車を運転できない高齢者を送迎する仕組みづくりを検討します。

ウ 高齢者の買い物支援

- ・外出が難しくなっている高齢者のために、食料品の移動販売事業者に地区内での販売を働きかけます。

エ 高齢者への食事提供

- ・一人暮らし、夫婦二人暮らしなど高齢者のみで暮らしている世帯に対して、食事を楽しんでもらうため弁当配食を検討します。

(2) 高齢者の生きがい活動の増進

- ・定期的にみんなで楽しむ健康体操やウォーキングの会の開催に取り組みます。
- ・長寿会、福々えがお（高齢者サロン）の周知、活動の魅力化に努め、参加の促進に取り組みます。また、身体の不自由な高齢者が参加しやすい環境づくりに取り組みます。
- ・高齢者に対して趣味教養活動の場の提供に努めます。
- ・高齢者の知識、経験を活用して子どもや若者に地区の歴史文化の継承、農林業体験の提供などに取り組みます。

表17 重点的に取り組みたい事業4

事業名称	勝手にウォーキング事業
事業目的	・高齢者をはじめとする地区住民の健康づくり ・世代間交流の場づくり
事業内容	・開催日、開催時刻を決め、スタート・ゴール地点は各自自由のウォーキングを行うことで、健康づくりと合わせて挨拶、立ち話などによる近隣関係の強化に結びつける（住民が出会い、挨拶できる基本コースづくり） ・開催日前日のPR放送は子どもたちが行い、参加の促進を図る
事業の年次計画	・初年度：準備会の設立、先進地の視察・研究、年間実施計画の作成 ・2年度：事業実施、評価・改善
その他の留意事項	・引きこもりがちな高齢者への参加の働きかけ、支援

(3) 高齢者の就業の推進

- ・元気な高齢者が収入を得られる場の確保に取り組みます。また、長寿会の活性化を図るため、次の取り組みを行うことを検討します。
 - ・高齢者が農林産物づくりを行い、農産物直売所に出荷、販売
 - ・市民農園、体験農園の管理、営農指導
 - ・元気な高齢者が介助の必要な高齢者の支援（外出、買い物、家・庭の掃除等）

5 暮らしやすさと強い絆で結ばれた地区づくり

(1) 暮らしやすい生活環境づくり

ア 安全な交通環境の確保

- ・子どもや高齢者をはじめとする歩行者の安全を確保するため、フルーツロードの速度制限、メロディロードの整備、一般県道津口国兼線の交差点への信号機の設置などを関係機関と連携して取り組みます。
- ・フルーツロードにおける車両の安全な走行を働きかけるため、交通事故防止看板の作成、設置に取り組みます。
- ・高低差のあるフルーツロードの冬季の安全な走行を確保するため、融雪剤散布の体制づくりを関係機関と連携して取り組みます。

イ 夜間の安全の確保

- ・夜間の安全な歩行を確保するため、防犯灯の設置に取り組みます。

ウ 美しい田園景観の保全

- ・地区を挙げて農地、山林の環境管理に取り組みます。
- ・道路、河川の定期的な清掃に取り組みます。

エ 日用品店舗の確保

- ・農産物直売所一帯への日用品店舗の設置・運営を検討します。

(2) 住民相互の強い絆づくり

ア 地区活動の推進

- ・本地区では自治振興会、子ども会、青年会、女性会、長寿会、福々えがお（高齢者サロン）などの様々な地区組織が活発に活動しており、活動に係る情報の共有と組織間の連携を強化し、地区の一層の活性化に取り組みます。
- ・各種行事の全員参加型行事への見直しと、子ども、若者が主役になれる場づくり、勝手にウォーキング事業、高齢者と子ども、若者交流推進事業などによって、住民相互の絆を一層強化します。
- ・住民誰もが自由に集まり、交流できる場づくりに取り組みます。

表18 重点的に取り組みたい事業5

事業名称	福田地区交流サロン設置事業
事業目的	・子どもから高齢者まで幅広くいつでも集えるサロンづくり
事業内容	・空き家を活用して誰もが立ち寄りやすい場所にサロンの設置 ・一定時間施設を開放（例：9:00～18:00） ・高齢者と子ども，若者交流推進事業の実施，高齢者の趣味教養活動等（比較的元気で自家用車，自転車等でアクセスできる住民が対象） ・自販機による軽飲食サービス，弁当配食の検討
事業の年次計画	・初年度：施設の確保（空き家所有者の了解，賃貸契約），管理運営計画の検討 ・2年度：事業開始，評価・改善
その他の留意事項	・空き家所有者の了解，管理人の確保（鍵の管理） ・福田コミュニティホームとの役割分担

イ 活動資金の確保

- ・高齢者の支援，都市住民との交流を自治振興会のビジネス展開に活用し，活動資金の確保を図ります。

ウ 地区行事の見直し

- ・一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯については，行事の担い手として参加することが難しくなっていることから，負担を軽減する方向で参加のあり方を検討します。
- ・「地区行事検討委員会（仮称）」を設置し，地区の伝統として実施されてきた行事について総合的に見直しを行います。特に，法要及び村法事のあり方については様々な意見があることから十分に協議します。
- ・「地区行事検討委員会（仮称）」には青年会をはじめとする若年層の参加を働きかけ，今後の行事のあり方を検討します。
- ・既存行事の見直しだけでなく，誰もが参加して楽しめる新規行事の開催（桜の花見，20～40歳代の交流会，地区運動会，イルミネーション祭り（久井町吉田地区で開催されている冬ホテルイルミネーションと同様のイベント））についても検討します。

表19 重点的に取り組みたい事業6

事業名称	地区行事見直し事業
事業目的	・住民ニーズを踏まえた誰もが参加しやすく，楽しめる地区行事の開催
事業内容	・地区行事検討委員会（仮称）の設置 ・各行事の評価（回数，時期，内容，参加者の状況等），見直し案の作成 ・見直し案に関する住民アンケート調査の実施
事業の年次計画	・初年度：検討委員会設置，各行事の評価，見直し ・2年度：合意できた行事から順次開始，実施後の行事の評価
その他の留意事項	・地区行事検討委員会（仮称）の委員構成（若年層の参加の確保）

エ 緊密な近隣関係づくり

- ・住民一人ひとりに対して地区情報の周知を徹底するため、「福田新聞（仮称）」の発行やインターネットを活用した情報発信などに取り組みます。
- ・結婚して移住した人が、地区に自然になじめる人間関係づくり（同世代との交流から始めて、徐々に交流の輪を拡大する等）の支援に取り組みます。

(3) 地区出身者との交流の推進

- ・地区出身者との交流を促進し、農林地や住宅の適正な管理の相談支援に取り組みます。また、地区情報を定期的に発信し、地区行事への参加を促進するとともに、特産品の宅配などに取り組みます。
- ・退職前の地区出身者に対しては帰郷の働きかけをするとともに、帰郷に係る相談支援（住まいの修繕，確保，就業先の斡旋等）に取り組みます。

4 計画の推進体制

(1) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

- ・ 地区住民へあらゆる機会を通じて「福田みらいあるプラン」を周知するとともに，取り組みへの参加を働きかけます。
- ・ 福田みらいあるプラン概要版を全戸配布します。
- ・ 自治振興会をはじめとする地区組織の会合で福田みらいあるプランの周知を図ります。

(2) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

ア 計画の推進体制づくり

- ・ 人口が減少する中で，元気な住民全員の参加による地区づくり推進体制を確立します。（特に，若い世代の参加の働きかけ）
- ・ 福田地区の各種団体との連携を強化し，一体的かつ幅広い活動を推進します。
- ・ 人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）を行います。

イ 段階的な取り組みの推進

- ・ 計画の優先順位付け（地区の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを推進します。

＜重点的に取り組みたい事業＞

- ・ 農産物直売所運営事業
- ・ 共同運営組織育成支援事業
- ・ 高齢者と子ども，若者交流推進事業
- ・ 勝手にウォーキング事業
- ・ 福田地区交流サロン設置事業
- ・ 地区行事見直し事業

ウ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・ 住民，各種団体，企業などとの連携を強化します。
- ・ 地区出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援を活用します。
- ・ 講習会，研修会，先進地視察などの実施による人材の育成を図ります。

(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地区内向けの情報発信

- ・自治振興会の中に広報委員会を設置し「福田新聞（仮称）」を発行し，地区情報の伝達に取り組みます。段階的に広報体制の充実を図り，最終的には月1回の発行を目指します
- ・若者世帯などに対し，インターネット等を活用した情報の発信に取り組みます。

イ 地区外向けの情報発信

- ・インターネットを活用した福田地区の情報発信体制づくりを行い，地区出身者，都市住民に対して地区の魅力・活動（年間行事・祭りカレンダー），空き家情報などを発信することにより，交流を推進します。
- ・将来的には，農産物直売所と連携して，特産品などのネット販売に取り組みます。
- ・福田地区だけでなく三原市の中山間地域の魅力を総合的に発信する体制づくりに行政と連携して取り組みます。

ウ 人材の確保

- ・自治振興会のホームページを管理，活用できる人材を確保，育成し，タイムリーな情報の発信体制を確立します。
- ・情報発信体制の確立に向けては，行政などとの連携を図るとともに，地区内で情報発信に関心のある担い手の確保，育成に取り組みます。

資料 計画策定の取り組み

1 福田地区地域計画策定委員会名簿

番号	名 前	役 職	所属団体	備 考
1	室谷 貞二	委員長	自治振興会長	
2	山永 庸夫	副委員長	自治振興会副会長	
3	吉森 峻二	委 員	自治振興会地区委員	兼 福田地区中山間地域振興組合
4	田中 誠之	委 員	自治振興会地区委員	
5	光重 謙二	委 員	自治振興会地区委員	
6	高谷 哲章	委 員	自治振興会地区委員	
7	新川 潤	事務局	自治振興会地区委員	
8	高谷 得二	委 員	宮総代	
9	時實 茂	委 員	社会福祉協議会	
10	近宗 明	委 員	民生委員児童委員	
11	新田衣津子	委 員	長寿会	
12	舛谷 良枝	委 員	女性会	
13	時末 尚史	委 員	青年会	
14	貞比良 久	委 員	青年会	
15	高谷 佳宏	委 員	青年会	
16	岡 健太郎	委 員	青年会	
17	越水 裕二	委 員	青年会	
18	中谷 康一	委 員	青年会	
19	松尾 浩吏	委 員	青年会	
20	新崎 文子	委 員	子ども会	
21	平野 由花	委 員	子ども会	
22	近宗 未帆	委 員	子ども会	
23	平野 光秋	委 員	農業関係者	担い手
24	住谷 雅和	委 員	農業関係者	担い手
25	松尾 正教	委 員	農業関係者	福田保全会
26	貞宗 幸生	委 員	農業関係者	三原市営農指導員
27	島村 恵子	委 員	農業関係者	元土地改良区事務
28	小松 香	委 員	農業関係者	
29	吉原 康裕	委 員	I ターン	
30	唐井ゆかり	委 員	地域おこし協力隊	
31	岩田 博夫	委 員	地域支援員	

注1：当該委員の任期は、平成33年3月31日までです（平成27年5月29日開催の地域計画策定委員会準備会で承認）。

注2：所属団体は、平成27年度のものであります。

2 計画策定の経緯

日 程	委員会等	主な協議事項
平成26(2014)年 11月23日(日)	福田自治振興会役員会	・平成27年度「地域計画」福田地区策定の取り組みについて
11月30日(日)	福田自治振興会拡大役員会	・平成27年度「地域計画」福田地区策定の取り組みについて
平成27(2015)年 3月18日(水)	平成26年度三原市中山間地域活性化連絡会議	・平成27年度「地域計画」策定地区の募集について
3月22日(日)	福田自治振興会役員会	・地域計画策定委員候補者の選定について
4月16日(木)	地域活性化事業説明会	・三原市中山間地域活性化事業の概要について (対象：日南地区)
4月18日(土)	地域活性化事業説明会	・三原市中山間地域活性化事業の概要について (対象：祇園地区)
4月19日(日)	地域活性化事業説明会	・三原市中山間地域活性化事業の概要について (対象：天神地区)
5月29日(金)	地域計画策定委員会	・地域計画策定委員会の設置について
6月2日(火)	中山間地域活性化事業 「地域計画」策定に関する説明会	・「地域計画」策定の取り組みについて
6月28日(日)	第1回地域計画策定委員会	・地域計画策定委員会の設置、役員選出について ・事業概要、計画策定に対する支援について ・地域計画策定の進め方について ・アンケート調査、地区活性化意見交換会（ワークショップ）などについて
7月11日(土)	第2回地域計画策定委員会	・アンケート調査について
7月24日(金)	第3回地域計画策定委員会	・アンケート調査について
8月8日(土) ～23日(日)	アンケート調査	・アンケート調査の実施
10月2日(金)	第4回地域計画策定委員会	・アンケート調査結果の報告 ・地区活性化意見交換会（ワークショップ）の進め方について
10月16日(金)まで	地区活性化意見交換会 （ワークショップ）参加者の募集	・地域計画策定委員として意見交換会（ワークショップ）への参加を希望される方を公募
10月23日(金)	地域計画策定委員会役員会	・地区活性化意見交換会（ワークショップ）の班分けについて
10月30日(金)	第1回福田地区活性化意見交換会（ワークショップ）	・テーマ別の意見交換 ・地区の魅力・資源と活用方法について ・地区の問題点・課題と解決方法について
11月27日(金)	第2回福田地区活性化意見交換会（ワークショップ）	・テーマ別の意見交換 ・地区の魅力・資源と活用方法について ・地区の問題点・課題と解決方法について ・重点的に取り組みたい事項の検討
12月11日(金)	第3回福田地区活性化意見交換会（ワークショップ）	・重点的に取り組みたい事項の事業内容の検討
平成28(2016)年 1月15日(金)	各班司会者会議	・計画素案の内容確認
1月29日(金)	第5回地域計画策定委員会	・計画素案の協議、修正
2月19日(金)	第6回地域計画策定委員会	・計画案の承認 ・今後の取り組みについて